

# 「症状・部位別」ネットセミナー

## 基礎講座 I-1 胃腸症状(胃腸薬)

### I. 胃腸薬の基礎知識

#### (「登録販売者試験問題作成に関する手引き」の復習)

まずは「登録販売者試験問題作成に関する手引き」を復習し、手引きの知識を確かなものにする。そして、それぞれの「手引き」の記載についてコメントを付し、「手引き」の記載をより実践で活用できるようにまとめた。

#### 1) 総合胃腸薬

##### (1) 「手引き」の記載

一般用医薬品には、様々な胃腸の症状に幅広く対応できるよう、制酸、胃粘膜保護、健胃、消化、整腸、鎮痛鎮痙、消泡等、それぞれの作用を目的とする成分を組み合わせた製品（いわゆる総合胃腸薬）もある。制酸と健胃のように相反する作用を期待するものが配合されている場合もあるが、胃腸の状態によりそれら成分に対する反応が異なり、総じて効果がもたらされていると考えられている。しかし、消化不良、胃痛、胸やけなど症状がはっきりしている場合は、効果的に症状の改善を図るため、症状に合った成分のみが配合された製品が選択されることが望ましい。

##### (2) コメント

一般用医薬品では、複数の成分を配合した総合胃腸薬が多い。「何となく、胃がすっきりしない」「胃もたれ、むかつきがある」など、何となく調子が悪いときや複数の症状があるとき、常備薬的な胃腸薬を求められたときなど、古くからわが国で経験的に使われてきたものも多く、さまざまなケースで使用できる。

ただし、「空腹時に胃が痛む」「食べ過ぎて胃が苦しい」など、原因や症状が限定されている場合には、それらに適した商品を選ぶことが望まれる。

## 2) アルミニウムを含む成分（制酸薬、胃粘膜保護成分）（Ⅲ－3参照）

### （1）「手引き」の記載

制酸成分のうちアルミニウムを含む成分については、透析療法（腎不全の患者に人工的な方法を使って血液を浄化する方法）を受けている人が長期服用した場合にアルミニウム脳症（アルミニウムが脳に蓄積し言語障害、異常行動、認識及び精神障害を起こす）及びアルミニウム骨症（骨が軟化するとともに骨、関節が痛む）を引き起こしたとの報告があり、透析療法を受けている人では、使用を避ける必要がある。また、透析療法を受けていない人でも、長期連用は避ける必要がある。

### （2）コメント

乾燥水酸化アルミニウムゲル、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、合成ヒドロタルサイトなど、制酸成分には、アルミニウムを含むものが多い。合成ヒドロタルサイトのよう、その名前からだけではアルミニウムを含むことが分からないものもあるので注意する。

胃粘膜保護・修復成分のアルジオキサ、スクラルファート、賦形剤のダイアルミネートなどもアルミニウムを含む成分なので、同様の注意が必要となる。

\*なお、「絶対に使ってはならないもの」「絶対にしてはならないこと」などのことを、医療用医薬品の添付文書では「禁忌」と表現する。一般用医薬品の添付文書には、「 してはいけないこと」として禁忌にあたる事項が記載されている。また、医療用医薬品の禁忌にあたる事項でも、一般の人が理解しにくいと考えられることについては、「次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談して下さい 医師の治療を受けている人」といった表現で、「 相談すること」の項に記載されていることもある。

### ◇調べてみよう！◇

アルミニウム含有成分には、このほかどのようなものがあるだろうか。

## 3) 制酸薬

### （1）「手引き」の記載

制酸成分は他の医薬品（かぜ薬、解熱鎮痛薬等）でも配合されていることが多く、併用によって制酸作用が強くなりすぎる可能性があるほか、高カルシウム血症、高マ

グネシウム血症等を生じるおそれがあるため、同種の無機塩類を含む医薬品との相互作用に注意される必要がある。また、カルシウム、アルミニウムを含む成分については止瀉薬、マグネシウムを含む成分については瀉下薬に配合される成分でもあり、それぞれ便秘、下痢等の症状に注意されることも重要である。

(2) コメント

- ①制酸成分の種類はさまざま、カルシウムを含むもの、アルミニウムを含むもの、マグネシウムを含むもの、ナトリウムを含むものなどが、組み合わせて配合されていることが多い。
- ②腎臓病の診断を受けた人では、これら無機塩類の排泄が遅れたり、体内に貯留しやすくなったりすることがあるため、服用前に医師・薬剤師に相談することとなっている。
- ③止瀉薬と瀉下薬、まぎらわしいので注意。

	薬としては	副作用としては
カルシウム	止瀉薬（下痢止め）に使用	便秘に注意
アルミニウム	止瀉薬（下痢止め）に使用	便秘に注意
マグネシウム	瀉下薬（便秘薬）に使用	下痢に注意

4) 胃腸鎮痛鎮痙薬（抗コリン成分）

(1) 「手引き」の記載

急な胃腸の痛みは、主として胃腸の過剰な動き（痙攣）によって生じる。消化管の運動は副交感神経系の刺激によって亢進し、また、副交感神経系は胃液分泌の亢進にも働く。そのため、副交感神経系の伝達物質であるアセチルコリンと受容体の反応を妨げることで、その働きを抑える成分（抗コリン成分）が、胃痛、腹痛、さしこみ（痙痛、痙）を鎮めること（鎮痛鎮痙）のほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる（Ⅱ-〈ケース6〉参照）。

(2) コメント

- ①消化管の運動は、副交感神経系の刺激によって亢進。
- ②抗コリン成分の副作用：散瞳による目のかすみ・異常なまぶしさ、眼圧上昇、排尿困難、口渇、便秘、顔のほてり、眠気、動悸など。服用後は、乗物又は機械類

の運転操作などを避ける。

③抗コリン成分の服用にあたって注意を要する人

- i. 排尿困難の症状のある人
- ii. 心臓病の診断を受けた人
- iii. 緑内障の診断を受けた人
- iv. 高齢者：排尿困難や緑内障等の基礎疾患をもっていることが多い。  
口渇や便秘等の副作用が現われやすい。

◆復習しよう！◆

交感神経系と副交感神経系、それぞれの特徴と役割は？

アドレナリン作動成分と抗コリン成分、それぞれの作用は？

## 5) 整腸薬

(1) 「手引き」の記載

整腸薬は、腸の調子や便通を整える（整腸）、腹部膨満感、軟便、便秘に用いられることを目的とする医薬品であり、その配合成分としては、腸内細菌の数やバランスに影響を与えたり、腸の活動を促す成分が主として用いられる。

(2) コメント

整腸成分としては、腸内細菌のバランスを整えることを目的としてビフィズス菌、アシドフィルス菌、ラクトミン、乳酸菌、酪酸菌等の生菌成分が用いられる。軽い便秘や下痢などに有効な場合もあるので、止瀉薬や瀉下薬を選択する前に、候補として考えてみるのもよいだろう。

★このほか、食物繊維やオリゴ糖が役に立つ場合もある。

食物繊維は、難消化性の糖質の一種で、不溶性の食物繊維と水溶性の食物繊維に分類される。前者は便のかさを増す、後者は便をやわらかくするといわれる。一方のオリゴ糖は、糖が数個つながったもの。消化されないまま、大腸に到達して、腸内細菌であるビフィズス菌のエサとなり、ビフィズス菌を増やし、便通を改善するとされる。

◇調べてみよう！◇

食物繊維やオリゴ糖を含んだ商品には、どのようなものがあるか

○アドバイスのヒント○

「ヨーグルトは、同じメーカーのものを」

便秘の予防や改善にヨーグルトや乳酸菌飲料などを摂っている人は多いが、菌種の効果が出るまでには、2週間はかかるといわれている。整腸効果を得るためには、同じメーカーの商品を続けて摂るようにしたほうがよい。

6) 止瀉薬

(1) 「手引き」の記載

止瀉薬は、下痢、食あたり、下り腹、軟便等に用いられること（止瀉。瀉はお腹を下す意味）を目的とする医薬品であり、その配合成分としては、腸やその機能に直接働きかけるもののほか、腸管内の環境を整えて腸に対する悪影響を減らすことによる効果を期待するものもある。

(2) コメント

止瀉薬に用いられる主な成分を示す。

分類	主な成分名
収斂成分	タンニン酸アルブミン、次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマス
腸管運動低下成分	ロペラミド塩酸塩（塩酸ロペラミド、 <b>ロペミン</b> ）
腸内殺菌成分	ベルベリン塩化物水和物（塩化ベルベリン）、タンニン酸ベルベリン、アクリノール水和物（アクリノール）、クレオソート
吸着成分	炭酸カルシウム、沈降炭酸カルシウム、乳酸カルシウム、リン酸水素カルシウム、天然ケイ酸アルミニウム

\* タンニン酸アルブミン：牛乳にアレルギーのある人では使用を避ける

\* ビスマス類：1週間以上継続して使用しない。アルコールと一緒に摂取しない。

胃潰瘍や十二指腸潰瘍の診断を受けた人は、医師・薬剤師に相談。

（損傷した粘膜からビスマスの吸収が高まるおそれがある）

\* ロペラミド塩酸塩：まれに重篤な副作用としてイレウス症状を生じることがある。

便秘を避けなければならない肛門疾患がある人、消化管の手術

後の人では、使用を避ける。

- \* 収斂成分、腸管運動低下成分は、感染性の下痢、食中毒による下痢には用いない。  
下痢は、からだにとって有害なものを排泄する生体反応。腸の運動を鎮めると、かえって症状を悪化させるおそれがある（Ⅱ-〈ケース7〉参照）。
- \* 下痢をすると水分を摂ってもすぐ下痢をするからと考え、水分を控える人がいて問題となる。下痢の時は積極的な水分摂取を勧める。ただし、この時の水分はナトリウムやカリウムなどの電解質とブドウ糖（グルコース）を含むものがよい。また、水分の補給というとゴクゴクと飲むイメージがあるが、嘔吐などをして飲めない場合は、5分おきぐらいにティースプーン1杯程度でよいので、少しずつ根気よく補給することが大切である（10kg ぐらいの体重の中等度の脱水の場合、500～1000mLを3～6時間かけて与えるといったことを目安とするとよい）。

## 7) 瀉下薬

### (1) 「手引き」の記載

瀉下薬（下剤）は、便秘症状及び便秘に伴う肌荒れ、頭重、のぼせ、吹き出物、食欲不振、腹部膨満、腸内異常発酵、痔の症状の緩和、又は腸内容物の排除に用いられること（瀉下）を目的とする医薬品であり、その配合成分としては、腸管を直接刺激するもの、腸内細菌の働きによって生成した物質が腸管を刺激するもの、糞便のかさや水分量を増すもの等がある。

### (2) コメント

瀉下薬に用いられる主な成分を示す。（Ⅱ-〈ケース9〉参照）

分類	主な成分名
小腸刺激成分	ヒマシ油
大腸刺激成分	センナ、センノシド、ダイオウ、カサントラノール、ピサコジル、ピコスルファートナトリウム
無機塩類	酸化マグネシウム、水酸化マグネシウム
膨潤性瀉下成分	カルメロースナトリウム、カルメロースカルシウム、プランタゴ・オバタ種子又は種皮
その他	ジオクチルソジウムスルホサクシネート（界面活性剤、 <b>ビーマス</b> ） マルツエキス（乳幼児の便秘に）

瀉下薬に用いられる主な漢方処方を示す。

桂枝加芍薬湯	腹部に膨満感のある人におけるしづり腹、腹痛に適すとされる。1週間位服用しても症状が改善しない場合は、服用を中止して医師・薬剤師に相談。
大黄甘草湯	便秘に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く、下痢しやすい人には不向き。他の瀉下薬を併用しない。5～6日服用しても症状が改善しない場合は、服用を中止して医師・薬剤師に相談。
大黄牡丹皮湯	比較的体力があり、下腹部痛があつて、便秘しがちな人における月経不順、月経困難、便秘、痔疾に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人には不向き。他の瀉下薬を併用しない。便秘・痔疾に対しては1週間位服用しても症状が改善しない場合は、服用を中止して医師・薬剤師に相談。
麻子仁丸	便秘に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人には不向き。他の瀉下薬を併用しない。5～6日服用しても症状が改善しない場合は、いったん使用を中止して専門家に相談。

\* 常習性便秘については、Ⅱ－〈ケース 10〉を参照のこと。

## 8) 消化器系

### (1) 「手引き」の記載

飲食物を消化して生命を維持していくため必要な栄養分として吸収し、その残滓を体外に排出する器官系である。これに関わる器官として、次のものがある。

○消化管：口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肛門

○消化腺：唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓

消化管は、口腔から肛門まで続く管で、平均的な成人で全長約9mある。飲食物はそのままの形で栄養分として利用できず、消化管で吸収される形に分解する必要があるが、これを消化という。消化には、消化腺から分泌される消化液による化学的消化と、咀嚼（食物を噛み、口腔内で粉碎すること）や消化管の運動による機械的消化とがある。

○化学的消化：消化液に含まれる消化酵素の作用によって飲食物を分解する。

○機械的消化：口腔における咀嚼や、消化管の運動などによって消化管の内容物を細かくして消化液と混和し、化学的消化を容易にする。

(2) コメント

①消化管の主な役割

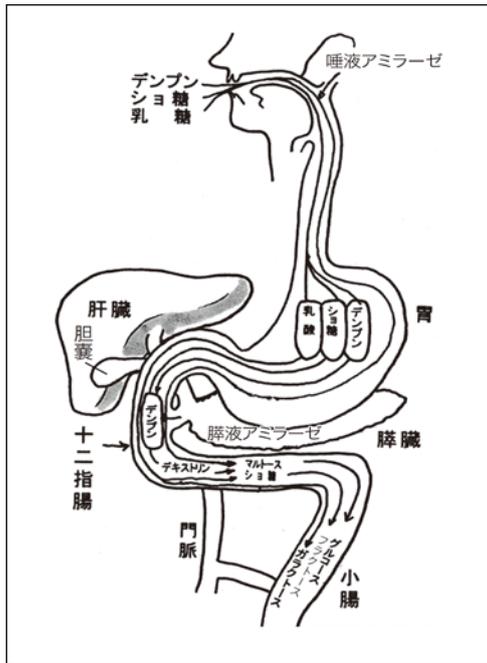
咽頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咽頭は、食物路と呼吸器の気道が交わる場所。</li> <li>・喉頭は、咽頭と気管の間にあり、発声器としての役割もある。</li> </ul>
食道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下された飲食物を、食道の運動によって胃へ送り込む。</li> <li>・食道の上端と下端には括約筋があり、胃の内容物の逆流を防いでいる。胃液が食道に逆流すると、胸やけが起きる（Ⅱ-〈ケース5〉参照）。</li> </ul>
胃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上腹部にある中空の臓器。中身が空の状態では扁平に縮んでいるが、食道から内容物が送られてくると、その刺激に反応して胃壁の平滑筋が弛緩し、容積が広がる（胃適応性弛緩）。</li> </ul>
小腸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十二指腸、空腸、回腸の3部分に分かれる。</li> <li>・腸の内壁からは腸液が分泌される。</li> </ul>
大腸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盲腸、虫垂、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸、直腸からなる。</li> <li>・消化はほとんど行われず、糞便が形成される。</li> <li>・糞便が直腸に送られると、その刺激に反応して便意が起こる。</li> </ul>
肛門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直腸粘膜が皮膚へと連なる体外への開口部。</li> <li>・肛門周囲は肛門括約筋で囲まれており、排便を意識的に調節することができる→我慢を繰り返していると、便秘になりやすい。</li> </ul>

②消化による変化

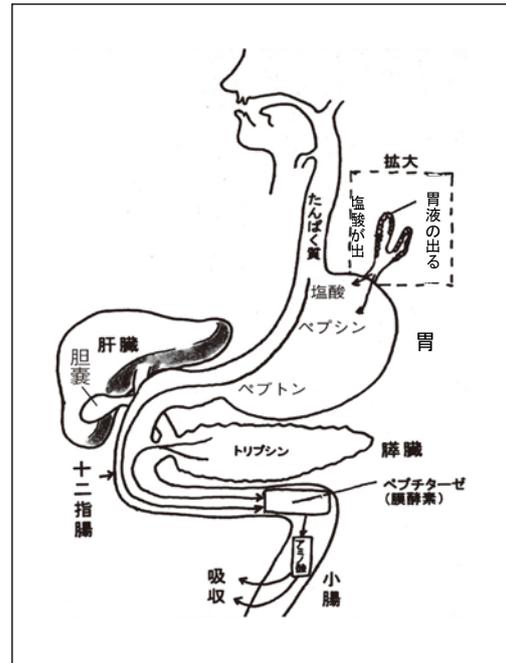
■消化による変化

消化器	消化液	酵素	糖質	蛋白質	脂肪	ミネラル	ビタミン	水分	反応
口	唾液	→	デンプン	蛋白質					デンプン→デキストリン 麦芽糖
胃	胃液	→			脂肪	ミネラル	ビタミン	水	蛋白質→ペプトン
肝臓	胆汁	→	麦芽糖	ペプトン					脂肪→脂肪酸、グリセリン
膵臓	膵液	→							ペプトン→アミノ酸 麦芽糖→ブドウ糖 脂肪→脂肪酸、グリセリン
小腸	腸液	→							麦芽糖→ブドウ糖 脂肪→脂肪酸、グリセリン ペプトン→アミノ酸
大腸									—

■糖質の消化・吸収・代謝



■蛋白質の消化・吸収・代謝



- i. 食べ過ぎや飲み過ぎの症状には、アミラーゼやリパーゼなどの消化酵素やウルソデオキシコール酸のような利胆作用をもつ消化成分が用いられる（Ⅱ-〈ケース3〉参照）。
- ii. 食物の胃内滞留時間が長いほど、胃に負担がかかる。炭水化物（パン、ご飯など）は短く、脂質分の多いものは比較的長い。胃がもたれているときなど、胃の調子が悪いときは、脂質分の摂取を控え、消化されやすいものを摂るようにアドバイスするとよいだろう。

■食物の滞留時間

停滞時間	食品 (100g)
2 時間以内	くず湯 (200mL)、食パン、りんご、桃、大根、かぶ、半熟卵、たい刺し身
2.5 時間以内	白米ご飯 (茶碗 1 杯)、餅、牛乳 (200mL)、じゃがいも、にんじん、生卵
3 時間以内	うどん、みそ汁 (1 杯)、かぼちゃ、さつまいも、鶏肉、カステラ、煮魚 (かれい、あゆ、あじ、きす)、牛すき焼き、ビスケット、卵焼き
3.5 時間以内	たけのこ、ピーナッツ (炒り)、たい塩焼き、あわび、はまぐり、昆布、かまぼこ、ゆで卵、ビーフステーキ
4 ~ 5 時間	うなぎ、かずのこ、天ぷら、豚肉、ベーコン、ロースハム
12 時間	バター (大さじ 5 杯)

9) 胃・小腸（Ⅱ－＜ケース2＞参照）

(1) 「手引き」の記載

胃液による消化作用から胃自体を保護するため、胃の粘膜表皮を覆う細胞から粘液が分泌されている。胃液分泌と粘液分泌のバランスが崩れると、胃液により胃の内壁が損傷を受けて胃痛等の症状を生じる。

(2) コメント

胃粘液

- ①胃自身が胃液で消化されないのは？ →胃粘液が、胃を保護しているから。
- ②ストレスなどで胃液と胃粘液のバランスが崩れると、胃痛、胃潰瘍などを生じる。  
→だから、こういうときの胃腸薬としては、制酸成分や胃液分泌抑制成分、胃粘膜保護・修復成分を配合したものをを用いる。

分類	成分例
制酸成分	炭酸水素ナトリウム、乾燥水酸化アルミニウムゲル、ケイ酸マグネシウム、酸化マグネシウム、合成ヒドロタルサイト、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、沈降炭酸カルシウムなど
胃液分泌抑制成分	ロートエキス、ピレンゼピン塩酸塩水和物（塩酸ピレンゼピン、 <b>ガストロゼピン</b> ）ファモチジン（H <sub>2</sub> ブロッカー、 <b>ガスター</b> ）など
胃粘膜保護・修復成分	アズレンスルホン酸ナトリウム、アルジオキサ、スクラルファート、ゲファルナート、ソファルコン、テプレノン、セトラキサート塩酸塩（塩酸セトラキサート）、銅クロロフィリンナトリウム、メチルメチオニンスルホニウムクロライドなど

\* ロートエキス

- ①抗コリン成分。目のかすみやまぶしさ、口渇、排尿困難、便秘などの副作用に注意。
- ②吸収された成分の一部が母乳中に移行して、乳児に頻脈がみられることがある。
- ③母乳が出にくくなることもある。

◇調べてみよう!◇

胃粘膜保護・修復成分のうち、スイッチOTCはどれ？

◆復習しよう!◆

総合胃腸薬に配合されている成分との違いは？

## 10) 肝臓（Ⅱ－＜ケース4＞参照）

### （1）「手引き」の記載

肝臓は、体内で最も大きい臓器であり、横隔膜の直下に位置する。胆汁を産生するほかに、主な働きとして次のようなものがある。

#### ①栄養分の代謝・貯蔵

小腸で吸収されたブドウ糖は、血液によって肝臓に運ばれてグリコーゲンとして蓄えられる。グリコーゲンは、ブドウ糖が重合してできた高分子多糖で、血糖値が下がったときなども、必要に応じてブドウ糖に分解されて血液中に放出される。皮下組織等に蓄えられた脂質も、一度肝臓に運ばれてからエネルギー源として利用可能な形に代謝される。

また、肝臓は、脂溶性ビタミンであるビタミンA、D等のほか、ビタミンB<sub>6</sub>やB<sub>12</sub>等の水溶性ビタミンの貯蔵臓器でもある。

#### ②生体に有害な物質の無毒化・代謝

消化管等から吸収された、又は体内で生成した、滞留すると有害な物質を、肝細胞内の酵素系の働きで代謝し無毒化し、又は体外に排出されやすい形にする。

医薬品として摂取された物質の多くも、肝臓において代謝される。

アルコールの場合、胃や小腸で吸収されるが、肝臓へと運ばれて一度アセトアルデヒドに代謝されたのち、さらに代謝されて酢酸となる（Ⅱ－＜ケース4＞参照）。アミノ酸が分解された場合等に生成するアンモニアも、体内に滞留すると有害な物質であり、肝臓において尿素へと代謝される。

ヘモグロビンが分解して生じたビリルビンも肝臓で代謝されるが、肝機能障害や胆管閉塞などを起こすとビリルビンが循環血液中に滞留して、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる症状）を生じる。

### （2）コメント

#### ①グリコーゲン

- i. 交感神経が優位になると、グリコーゲンがブドウ糖に変化し放出される。交感神経刺激薬は、糖尿病の人は服用前に「相談すること」となっている（プソイドエフェドリン塩酸塩は、末梢血管収縮、心機能亢進により血圧を上昇させ、糖尿病を悪化させるので禁忌）。

#### ②アセトアルデヒド

- i. アセトアルデヒドは、血液中のアルコールが、肝臓のアルコール脱水素酵素（ADH）

によって分解された中間代謝物質。これが、二日酔いの主な原因の一つとされる。アセトアルデヒドは、アセトアルデヒド脱水素酵素（ALDH）によってさらに分解されて酢酸となり、最終的には、炭酸ガスと水にまで分解される。

- ii. L-システインは、アセトアルデヒドの代謝を促す働きがあり、二日酔いや全身倦怠の症状を軽減するとされる。
- iii. L-システインは、髪や爪、皮膚に存在するアミノ酸の一種。皮膚におけるメラニンの生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を促す働きもあるとされる。

## Ⅱ. 症状別の対応法

### <ケース1>

#### 1) 顧客の訴え

50代男性。胃が重い感じがして、食欲がない。吐き気がしたり、胃がもたれたりするときもある。

#### 2) 対応

顧客の訴えから、胃腸の機能が低下していることが考えられるので、胃の働きを高める健胃成分や副交感神経刺激薬（塩化カルニチン）、消化管の運動を調整する成分（トリメブチンマレイン酸塩〈マレイン酸トリメブチン〉）などを主に配合した胃腸薬を選ぶ。いろいろな症状があることから、総合胃腸薬で様子を見てもよい。

なお、健胃成分は、苦味（オウバク、オウレン、ゲンチアナなど）や芳香（ケイヒ、ショウキョウ、チンピなど）によって味覚や嗅覚を刺激して、反射的に唾液や胃液の分泌を促す。散剤や顆粒剤の場合、味やにおいを感じにくくしてしまうオブラートに包んで服用することは適切ではないことを伝える。

### <ケース2>（I-9）参照

#### 1) 顧客の訴え

30代女性。明け方や夕方の空腹時になると胃が痛む。仕事が忙しく、ストレスも多い。

#### 2) 対応

訴えから、胃酸の出過ぎによる胃粘膜障害（胃粘膜の炎症）が考えられるので、胃酸の分泌を抑えるH<sub>2</sub>ブロッカー（第1類医薬品）、または胃酸分泌抑制成分（ロートエキス、ピレンゼピン塩酸塩水和物〈塩酸ピレンゼピン水和物〉など）や制酸成分、胃粘膜保護・修復成分、局所麻酔成分（オキセサゼインなど）を配合した胃腸薬で対応するとよいだろう。

ただし、症状が改善しないとき、痛みを繰り返すときなどは、ピロリ菌\*の検査なども勧めるべきで、早めに受診するように伝える。消化性潰瘍の可能性も考えられるので、

薬を服用して一時的に楽になった場合も、念のため、受診することが望ましい。

**\*ピロリ菌**

ヘリコバクター・ピロリ(*Helicobacter pylori*)のこと。人間の胃の中に住んでいる細菌で、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の原因の一つである。日本では、年齢が高くなるほど、感染率も高くなる。

現在、ピロリ菌の一次除菌は、プロトンポンプ阻害薬（胃酸の分泌を抑える薬）と抗生物質（アモキシシリン、クラリスロマイシンなど）を組み合わせで行われている。ピロリ菌の除菌により、胃がんなどの予防ができると言われている。ただし、除菌後食欲の増加などから、肥満や胃食道逆流症を引き起こす事が知られており、将来的に食道がんの増加につながるのではと危惧する声もある。ピロリ菌の除菌について相談を受けた場合には、胃腸障害がある場合には積極的な除菌を勧めるべきであるが、症状がない場合については総合的に考えることが必要であり慎重に対応する。

**<ケース3> (I-8) 参照)**

**1) 顧客の訴え**

20代男性。焼き肉を食べ過ぎて、気持ちが悪い。

**2) 対応**

食べ過ぎとのことなので、消化を助ける消化酵素を主に含むものを選択する。炭水化物、蛋白質、脂質、繊維質等の分解に働く酵素を補うものとして、ジアスターゼ、プロザイム、ニューラーゼ、リパーゼ、セルラーゼ又はその複合酵素（ビオジアスターゼ、タカジアスターゼ）等がある。特に焼き肉を食べたとのことなので、脂質を消化するリパーゼ（「手引き」第2章参照）や、蛋白質・脂質を消化する成分を含む複合酵素を配合したものがよいと思われる。

また、胆汁酸、動物胆、ウルソデオキシコール酸、デヒドロコール酸は胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があり、脂質の消化を助ける働きがあるので（「手引き」第2章参照）、これらの成分を含むものでもよいだろう。

薬の選択にあたっては、いつ食べたのか、下痢はしていないかなども確認する。また、焼き肉はかなり脂を含むことから、焼き肉を食べた後に起こる膵炎が知られており、「焼き肉膵炎」や「カルビ膵炎」とも呼ばれている。胃や腹部の痛みを訴える場合には受診を勧めるべきである。

## <ケース4> (I-10) 参照)

### 1) 顧客の訴え

40代男性。アルコールを飲み過ぎた。頭がガンガン、胃がむかむかする。

### 2) 対応

飲み過ぎで、胃が疲れていると考えられるので、胃の粘膜を保護・修復する成分を主に含むものを。少しでも早く楽になりたいときは、液体の胃腸薬でもよいだろう（ただし、吐き気のないとき）。飲み過ぎて胃が痛い場合は、制酸成分や胃粘膜保護・修復成分、局所麻酔成分（オキセサゼインなど）を配合した胃腸薬で対応する。

このケースのように、さまざまな二日酔いの症状がある場合は、L-システイン製剤の選択も考えられる。L-システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す作用がある。

頭痛がひどい場合は、解熱鎮痛薬を用いることになるが、胃粘膜障害作用の弱いアセトアミノフェンを第一選択薬とするとよいだろう。ただし、顧客が、日ごろから大量にアルコールを摂取している場合にアセトアミノフェンを摂取すると、強い肝毒性をもつ代謝物が生成され、肝機能障害を起こすおそれがあるため、注意が必要となる。

口が渴いて苦い人の二日酔い・胃炎には、黄連解毒湯を用いてもよい。ただし、からだの虚弱な人には不向きで、いつもは体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらして落ち着かない傾向のあるものに適す。このほか、鼻出血、不眠症、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹、皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎などにも用いられる。

体力に関わらず使うことのできる五苓散は、のどが渴いて尿量が少なく、めまい、吐き気、嘔吐、腹痛、頭痛、むくみなどのいずれかを伴う次の症状に適す。水様性下痢、急性胃腸炎、暑気あたり、頭痛、むくみなど。

OTC薬の中には、黄連解毒湯と五苓散を配合した液体の胃腸薬もある。顧客から、今一番つらい症状や希望などを聞いて、より適切な商品を選ぶように心がける。

## <ケース5> (I-8) 参照)

### 1) 顧客の訴え

50代女性。胸やけがひどい。口の中にまで、すっぱいものがあがってくることもある。

## 2) 対応

胃食道逆流症（逆流性食道炎）\*の可能性が考えられることから、H<sub>2</sub>ブロッカー（第1類医薬品）や制酸成分を主に含む胃腸薬で対応する。それでも症状が改善しない場合は、プロトンポンプ阻害薬（PPI：医療用医薬品。胃酸分泌の最終段階を阻害し胃酸を抑制。H<sub>2</sub>ブロッカーより強力。**タケプロン、オメプラール**）などによる治療が必要となるので、早めに受診するように伝える。

また、からだを締め付ける服装、コルセットやガードルの着用、前かがみになって行う作業（重いものを持ち上げる、雑巾がけをする、草むしりをするなど）は避けること、食後すぐに横にならないこと（逆流を起こしやすいので、2～3時間は、起き上がったままにいる、枕などを高くして眠る）などのアドバイスを行ってもよいだろう。

### \* 胃食道逆流症

胃液が食道に逆流することによって、食道に炎症を生じる疾患。胸やけやげっぷ、呑酸感（すっぱいものが口まで上がってくる）などのほか、胸痛、咳、声がれ、耳痛などの症状がみられることもある。

やせ型で円背の人、コルセットやガードルを着用している人、ボディビルダーなど、腹部を圧迫しやすい人で起こりやすい。

食道下部括約部を弛緩させる作用をもつカルシウム拮抗薬、テオフィリンなどで起こる場合もあるため、服用中の薬剤がある顧客の場合は、医師・薬剤師への相談を勧める。

## <ケース6>（I-4）参照）

### 1) 顧客の訴え

40代女性。突然、胃がさしこむように周期的に痛む。

### 2) 対応

消化管などが痙攣を起こしていると考えられるので、鎮痛鎮痙薬を選択する。

鎮痛鎮痙薬には、抗コリン成分のブチルスコポラミン臭化物（臭化ブチルスコポラミン）やメチルペナクチジウム臭化物（臭化メチルペナクチジウム）などのほか、鎮痙成分のパパペリン塩酸塩（塩酸パパペリン）、局所麻酔成分のアミノ安息香酸エチルやオキセサゼインなどが用いられる。オキセサゼインなどの局所麻酔成分は、嚙んだりなめたりすると口の中がしびれるので、速やかにのみ下すように伝える。

アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症\*を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児には使用しない。また、オキセサゼインも、小児に対する安全性が確立されて

いないため、15歳未満の小児への使用は避けることとされている。

痛みとともに冷や汗が出てくるような場合は、一般用医薬品で対応しないで、至急受診を勧める。

**\*メトヘモグロビン血症**

赤血球中のヘモグロビンの一部がメトヘモグロビンに変化したため、赤血球の酸素運搬能力が低下し、貧血症状を呈するもの。アミノ安息香酸エチルを服用した乳幼児では、メトヘモグロビン血症を発現するおそれがあるため、6歳未満の小児は服用しないこととされている。

アミノ安息香酸エチルは、鎮痛鎮痙薬のほか乗物酔い防止薬にも配合されているため、注意する。かゆみ止めなどの外用薬にも配合されるが、この場合は、小児も使用できる。

**<ケース7> (I-6) 参照)**

**1) 顧客の訴え**

20代男性。いたんだ魚を食べて下痢をした。

**2) 対応**

殺菌成分のみを含有する止瀉薬を（ベルベリン塩化物水和物〈塩化ベルベリン〉、アクリノール水和物〈アクリノール〉、クレオソートなど）。収斂作用のある成分（タンニン酸アルブミン、ビスマス類）や消化管運動抑制作用のある成分（ロペラミド塩酸塩〈塩酸ロペラミド〉、ロートエキス）が配合されていると、毒素や細菌などの排泄が遅れ、症状が悪化するおそれがある。

殺菌成分のみの止瀉薬は、商品数が少ないが、品揃えしておくとうい。

食事が原因の下痢や腹痛に関しては、原因と思えるものに対して訴えがある場合と原因について言及されない場合がある。下痢や腹痛を訴える顧客については、思い当たることあるかどうか、また食べたものについても潜伏期間を考え、2日ぐらい前まで確認するとともに、周りに同じような症状をした人がいないか確認する。

なお、症状が改善した後は、乳酸菌製剤などで腸の調子を整えるとよいだろう。

**\*ノロウイルス**

秋から冬にかけて流行する嘔吐・下痢症の原因ウイルス。カキなどの2枚貝から感染することが多いが、熱に弱く、十分に加熱すると死滅する（カキの場合は、85℃1分）。しかし、患者の糞便や嘔吐物、その乾燥物が空中飛散し感染することも少なくなく感染力も強い。これら进行处理する場合は、次亜塩素酸ナトリウム（商品名：ハイター）以外は無効なので、しっかり防御した上、それで消毒する。

また、脱水にならないように、水分・電解質をこまめに補給する。

## <ケース8>

### 1) 顧客の訴え

30代男性。毎朝のように下痢をする。日中はおさまることが多いが、下痢止めが手放せない。

### 2) 対応

寝冷えをしていないか、冷たいものを摂ることが多くないかなどを確認。特に当てはまることがないようであれば、下痢型の過敏性腸症候群の可能性が考えられる。受診までのつなぎとして下痢止めを販売し、できるだけ早めに受診することを勧める。薬物療法（自律神経調整薬、抗不安薬、抗うつ薬、5HT<sub>3</sub>など）やカウンセリング、生活習慣の見直しなどで、改善することが多いとされる。

## <ケース9>（I-7）参照

### 1) 顧客の訴え

10代女性。引っ越しをしたら便秘になってしまった。今まで便秘薬はのんだことがないので、あまり強くなく、おなかが痛くなりたくない薬を希望。

### 2) 対応

引っ越しに伴う一時的な便秘と考えられる。腹痛や腹部膨満感などの症状がほとんどなく、本人の具合も悪くないようであれば、整腸薬で対応してもよいだろう。腸内環境が整えられることで、便が出やすくなることがある。

便秘薬を選ぶ場合は、顧客が慢性的な便秘ではないこと、腹痛の少ないものを希望していることなどから、無機塩類（硫酸マグネシウム、酸化マグネシウム）や膨潤性下剤（プラントゴ・オバタ種皮など）を含有したものを選択し、水分を摂り、少なめの量から始めさせる。また、薬の作用で便意をもよおしてきた時には、我慢しないで必ずトイレに行くよう説明する。

また、便秘が慢性化しないように、水分や食物繊維を積極的に摂ること、トイレに行きたいと思ったら我慢しないことなどもアドバイスするとよいだろう。

<ケース 10> (I-7) 参照)

1) 顧客の訴え

20代女性。大腸刺激性成分を含む便秘薬を服用している。食物繊維を摂ったり、腹筋運動をしたりしているが、コロコロした小さな固い便しか出ない。

2) 対応

訴えから、顧客は痙攣性便秘ではないかと考えられる。これは、下行結腸などに痙攣を起こしている部分があり、便を正常に送ることができない状態になっているもので、なるべく刺激を与えないことが原則。大腸刺激性成分を含む便秘薬や食物繊維、腹筋運動などは、逆効果になってしまうことが多い。

店頭では整腸薬で対応し、改善がなければなるべく早く受診するように勧める。

■常習性便秘のタイプと原因・特徴、対応策

便秘のタイプ	原因・特徴	対応策
弛緩性便秘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動不足、筋力の低下、食事量の不足、偏食、不規則な生活などが主な原因。</li> <li>・腸の蠕動運動や緊張感が低下している。腸の内容物が腸を通過するのに時間がかかり、その間に水分の吸収が増加して便が固くなる。</li> <li>・便は大きくてカチカチ。腹痛はあまり感じない。</li> <li>・女性や高齢者に多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●腸に適度な刺激を与える 十分な食物繊維と水分の摂取、運動や腹部のマッサージなどによって、適度な刺激を与える。</li> <li>●生活習慣の見直し 決まった時間にトイレに行く習慣をつける。排便を我慢しない。</li> <li>●刺激性の便秘薬 大腸刺激性の便秘薬を、少量から服用する。症状が長引き、便秘薬の服用量が増えている場合は、受診を勧める。</li> </ul>
直腸性便秘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便意の我慢、便秘薬の使いすぎなどが主な原因。</li> <li>・肛門付近に達した便や、便秘薬による刺激を受け続けているうちに、直腸が刺激になれてしまい、反応が鈍くなって生じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 整腸薬（乳酸菌製剤）や食物繊維のサプリメント、オリゴ糖なども活用する。</li> </ul>

## Ⅱ. 症状別の対応法

痙攣性便秘	・主にストレス、緊張、疲労などによって、自律神経のバランスが乱れて起こる。 ・腸の緊張状態が高まって過敏になっている。 ・便は小さくてコロコロ。腹痛を伴ったり、下痢と便秘を繰り返したりすること多い。 ・20～30代の女性に多くみられる。	●ストレスの緩和・軽減を心がける。十分な睡眠、休息、気分転換など。 ●腸に刺激を与え過ぎない。食物繊維を摂り過ぎないように注意し、消化のよいものを食べる。腹筋運動やマッサージなどは、逆効果になることもある。 ●刺激性の便秘薬は使わない。大腸刺激性の便秘薬で、症状が悪化することもあるため、使用しない。店頭では整腸薬で対応し、症状が長引いているときは受診を勧める。
-------	---	---

### ○アドバイスのヒント○

#### 「トイレ（排便時）の姿勢」

- ①状態を前傾させて、両肘を太ももの上におく。前傾姿勢になると、直腸肛門角が開いて便がスムーズに腸に送られる。
- ②腹筋（腰に手を当てて咳をした時に動く筋肉）だけに力を入れる。肩や背中には力を入れない。
- ③かかとを約20度あげる（腹筋の力を腸にかけやすくなる）

[NHK「ためしてガッテン！」より]

## Ⅲ. 添付文書に記載されている理由

### 1. ロートエキス

#### 1) 添付文書の記載

「してはいけないこと」

授乳中は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は、授乳を避けて下さい。

#### 2) 記載理由

吸収された成分の一部が乳汁中に移行し、乳児の脈が速くなる（頻脈）ことがある。また、母乳が出にくくなることがある。

\* ロートエキスは、抗コリン作用をもつ成分で、胃酸分泌抑制や消化管の過剰な運動（痙攣）抑制を目的として、多くの胃腸薬・鎮痛鎮痙薬・止瀉薬などに配合されている。

\* 商品数は少ないが乗物酔い防止薬に配合されていることもある。

### 2. セトラキサート塩酸塩（塩酸セトラキサート）

#### 1) 添付文書の記載

「相談すること」

次の診断を受けた人：血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）、血栓症を起こすおそれのある人。

#### 2) 記載理由

セトラキサート塩酸塩が、体内で代謝を受けてトラネキサム酸を生じるため。

\* トラネキサム酸は、体内での炎症物質の産生を抑えることで炎症の発生を抑え、のどの粘膜などの腫れを和らげる抗炎症成分である。

\* 凝固した血液を分解されにくくする働き（抗プラスミン作用）も有するため、血栓のある人、血栓症を起こすおそれがある人では、生じた血栓が分解されにくくなることが考えられるので、服用前に、医師・薬剤師に相談することとされている。

\*トラネキサム酸は、かぜ薬、せき止め、口内炎用薬などにも配合されていることがあるので、かぜ薬と胃腸薬を併用する際には注意する。

### 3. 合成ヒドロタルサイト（I-2）参照）

#### 1) 添付文書の記載

「してはいけないこと」

次の人は服用しないこと：透析療法を受けている人。

#### 2) 記載理由

透析療法を受けている人が長期間服用した場合、アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を発症したとの報告がある。

\*成分名からはわかりにくいですが、合成ヒドロタルサイトはアルミニウムを含む制酸薬。多くの胃腸薬に用いられているほか、解熱鎮痛薬などに配合されている場合もあるので、注意する。

### 4. ロペラミド塩酸塩（塩酸ロペラミド）

#### 1) 添付文書の記載

「相談すること」

次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください

：発熱を伴う下痢のある人、血便のある人又は粘液便の続く人。

急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人。

#### 2) 記載理由

本剤で無理に下痢を止めると、症状がかえって悪化することがある。特に、細菌性の下痢や食中毒のときに服用すると、腸の運動が抑えられ、便の排出が妨げられ、症状の悪化、治療期間の延長を招くことがある。

\*本成分が配合された止瀉薬は、食べ過ぎ・飲み過ぎによる下痢、寝冷えによる下痢の症状に用いられることを目的としている。

\*使用は短期にとどめることが望ましく、2～3日間使用しても症状の改善がみら

れない場合には、医師の診療を受けることが望ましいとされている。

\* 副作用として、「激しい下痢、ガス排出の停止、嘔吐、腹部膨満感を伴う著しい便秘」を呈するイレウス様症状（腸閉塞様症状）がみられることがある。

\* 一般用医薬品では、15歳未満の小児に適応がある商品はない。

## 5. ロペラミド塩酸塩（塩酸ロペラミド）

### 1) 添付文書の記載

「してはいけないこと」

服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。

### 2) 記載理由

眠気が現われることがある。

\* 通常、「眠気」が起きるものというのと、抗ヒスタミン成分や催眠鎮静成分を思い出すことが多いが、止瀉成分の本成分でも眠気を催す可能性があることを知っておく。

## 6. タンニン酸アルブミン

### 1) 添付文書の記載

「してはいけないこと」

次の人は服用しないでください：本剤又は牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人。

### 2) 記載理由

タンニン酸アルブミンは、牛乳に含まれる蛋白質（カゼイン）から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人は服用を避ける。

\* タンニン酸アルブミンは収斂作用があるため、細菌性の下痢や食中毒のときに使用すると、症状をかえって悪化させるおそれがある。

## 7. ブチルスコポラミン臭化物（臭化ブチルスコポラミン）

### 1) 添付文書の記載

「してはいけないこと」

服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。

### 2) 記載理由

抗コリン作用があるため、瞳孔を散大させ、まぶしさや目のちらつきがあらわれるおそれがある。

\* その他、眼圧上昇、排尿困難、口渇、便秘などの副作用にも注意。

\* 服用後の運転操作禁止の理由は、「眠気」だけではない。

## 8. センナ

### 1) 添付文書の記載

「相談すること」

次の人は服用前に医師または薬剤師に相談してください

：妊婦または妊娠していると思われる人。

### 2) 記載理由

腸の急激な動きに刺激されて、流産・早産を誘発するおそれがある。

\* センナ、センノシド、ダイオウ、カサントラノールは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られているため、乳児に下痢を生じるおそれがある。

授乳中は服用を避けるか、服用する場合は授乳を避ける。

## 9. 次硝酸ビスマス、次没食子酸ビスマス

### 1) 添付文書の記載

「してはいけないこと」

服用時は飲酒しないこと。

## 2) 記載理由

アルコールと一緒に摂取されると、ビスマスの循環血液中への移行が高まって、精神神経症状を生じるおそれがある。服用時の飲酒は避ける。

- \* 海外において、長期連用した場合に精神神経症状が現われたとの報告がある。
- \* 1週間以上継続して使用しない。
- \* 胃潰瘍、十二指腸潰瘍の診断を受けた人は、損傷した粘膜からビスマスの吸収が高まるため、服用前に、医師・薬剤師に相談することとされている。

## 10. グリセリン浣腸

### 1) 添付文書の記載

「相談すること」

次の人は使用前に医師又は薬剤師に相談すること：痔出血のある人。

### 2) 記載理由

腸管や肛門に損傷があると、グリセリンが傷口から血管内に入って溶血を起こす、また腎不全を起こすおそれがある。

\* 溶血：何らかの原因により、赤血球の細胞膜が損傷を受け、赤血球が破壊されること。

## IV. 応用知識（医療用医薬品との相互作用・副作用）

ー 薬剤師と連携してステップアップ！ 分からないことは薬剤師に確認を！

### ■一般用医薬品と医療用医薬品（商品名）との相互作用

一般用医薬品	医療用医薬品（商品名）の例	相互作用
シメチジン （H <sub>2</sub> ブロッカー・ 第1類医薬品）	<ul style="list-style-type: none"> <li>キサンチン系製剤：テオフィリン（<b>テオドール</b>）、アミノフィリン水和物（<b>ネオフィリン</b>）</li> <li>ベンゾジアゼピン系製剤：ジアゼパム（<b>セルシン</b>）</li> <li>抗てんかん薬：フェニトイン（<b>アレピアチン</b>）、カルバマゼピン（<b>テグレート</b>）</li> <li>抗凝固薬：ワルファリンカリウム（<b>ワーファリン</b>）</li> </ul>	シメチジンにより、併用薬（医療用医薬品）の薬物代謝酵素の活性が阻害されるため、血中濃度が上昇する可能性がある。
非ステロイド性消炎鎮痛薬（イブプロフェンなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニューキノロン系抗菌薬：エノキサシン水和物（<b>フルマーク</b>）、シプロフロキサシン（<b>シプロキサ</b>）ノルフロキサシン（<b>バクシダール</b>）ロメフロキサシン（<b>ロメバクト</b>）など</li> </ul>	痙攣を誘発するおそれがある。
アスピリン	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗血小板薬：テクロピジン塩酸塩（<b>パナルジン</b>）、クロピドグレル硫酸塩（<b>プラビックス</b>）、シロスタゾール（<b>プレタール</b>）</li> <li>抗凝固薬：ワルファリンカリウム（<b>ワーファリン</b>）</li> </ul>	出血傾向が増強するおそれがある。
アルミニウム・マグネシウム含有制酸剤、カルシウム剤、鉄剤など	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニューキノロン系抗菌薬：シプロフロキサシン（<b>シプロキサ</b>）ノルフロキサシン（<b>バクシダール</b>）トスフロキサシン（<b>オゼックス</b>）プルリフロキサシン（<b>スオード</b>）など</li> <li>ビスホスフォネート系骨粗鬆症治療薬：エチドロン酸ナトリウム（<b>ダイドロネル</b>）、アレンドロン酸ナトリウム水和物（<b>ボナロン</b>）、リセドロン酸ナトリウム水和物（<b>アクトネル</b>）など</li> </ul>	併用薬とミネラルが難溶性のキレートをつくるため、両剤の吸収が妨げられる。同時摂取は避け、2時間程度、間隔をあける。
カルシウム製剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤：アルファカルシドール（<b>アルファロール</b>）、カルシトリオール（<b>ロカルトロール</b>）</li> </ul>	カルシウムの吸収が促進され、高カルシウム血症を発症するおそれがある。

## ■胃腸障害を引き起こす医療用医薬品の例

薬効群	成分名（商品名）の例	主な症状
非ステロイド性消炎鎮痛薬（内服）	ジクロフェナクナトリウム（ <b>ボルタレン</b> ）、ロキソプロフェンナトリウム水和物（ <b>ロキソニン</b> ）、ナプロキセン（ <b>ナイキサン</b> ）、アンピロキシカム（ <b>フルカム</b> ）、インドメタシンファルネシル（ <b>インフリー</b> ）、エトドラク（ <b>ハイペン</b> ）*、メロキシカム（ <b>モービック</b> ）* *COX2選択性が強いので胃腸障害は引き起こしにくいですが、消化性潰瘍があるときに使用するとその治りが遅くなるといわれている。	消化性潰瘍、胃痛、食欲不振、吐き気
副腎皮質ホルモン製剤（内服）	ヒドロコルチゾン（ <b>コートリル</b> ）、プレドニゾン（ <b>プレドニン</b> ）、メチルプレドニゾン（ <b>メドロール</b> ）、デキサメタゾン（ <b>デカドロン</b> ）、ベタメタゾンプロピオン酸エステル（ <b>リンデロン</b> ）	消化性潰瘍、胃痛、胃出血、便が黒い
アルツハイマー型認知症治療薬	ドネペジル塩酸塩（ <b>アリセプト</b> ）	消化性潰瘍、腹痛、下痢
交感神経抑制薬	クロニジン塩酸塩（ <b>カタプレス</b> ）、レセルピン（ <b>アポプロン</b> ）	消化性潰瘍、胃痛
ビスホスフォネート系骨粗鬆症治療薬	エチドロン酸二ナトリウム（ <b>ダイドロネル</b> ）、アレンドロン酸ナトリウム水和物（ <b>ボナロン</b> ）、リセドロン酸ナトリウム水和物（ <b>アクトネル</b> ）	食道潰瘍、吐き気、胃痛、胸やけ
カルシウム拮抗薬	ニフェジピン（ <b>アダラート</b> ）、ニルバジピン（ <b>ニバジール</b> ）、アムロジピンベシル酸塩（ <b>ノルバスク</b> ）	胃食道逆流症（逆流性食道炎）
炭酸脱水酵素阻害薬	アセタゾラミド（ <b>ダイアモックス</b> ）	食欲低下、味覚異常
ジギタリス製剤	ジゴキシン（ <b>ジゴシン</b> ）、メチルジゴキシン（ <b>ラニラピッド</b> ）	吐き気、食欲不振
骨粗鬆症治療薬	イプリフラボン（ <b>オステン</b> ）	胸やけ、胃痛、食欲不振

## V. 添付文書の読み方

添付文書には様々な医薬品の情報が収録されています。一般用医薬品の添付文書は使用者であるお客様向けに記載されていますが、医薬品販売の専門家は、それらの情報をよく整理して、さらに専門家ならではの店頭での情報提供や、相談応需に活用できるようにしておくことが大切です。

ここでは、実際の商品に添付されている添付文書を参考に、それぞれの項目ごとに、読み方やポイントを解説していきます。なお、文頭の数字は、それぞれ添付文書中の数字と対応していますので、実際の添付文書と見比べながら学習して下さい。

### 「ブスコパンA錠」

#### ⚠ 使用上の注意

##### ⊗ してはいけないこと

1. 次の人は服用しないでください

本剤によってアレルギー症状を起こしたことがある人が、再び本剤を服用すると、その副作用が再度発現する可能性が高くなり、危険です。過去にどのような成分でアレルギーや副作用を起こしたことがあるか、必ず確認しましょう。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください

本剤に含まれるロートエキスには、抗コリン作用があります。胃腸鎮痛鎮痙薬や乗物酔い薬にも、抗コリン成分が配合されていることが多く、両者を一緒に服用すると、抗コリン成分が重複する可能性があるため、併用しないこととなっています。

販売時には、他に服用している薬はないか、必ず確認しましょう。

3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください

#### ⚠ 使用上の注意

##### ⊗ してはいけないこと

守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります。)

1. 次の人は服用しないでください  
本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください  
他の胃腸薬 ロートエキスを含有する製剤)、他の胃腸鎮痛鎮痙薬、乗物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください  
目のかすみ、異常なまぶしさ等の症状があらわれることがあります。)

本剤は、抗コリン成分を配合しているため、瞳孔括約筋や毛様体筋弛緩による視調節障害や散瞳による目のかすみや異常なまぶしさを生じるおそれがあります。服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこととされているのは、眠気を催す成分だけではないことを覚えておきましょう。



### 相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください

(1) 現在の症状が、治療中の病気による可能性、または服用中の薬剤の副作用による可能性があります。

(2) 妊娠中の強い胃痛・腹痛は、妊娠の異常など他の原因も考えられるため、自己判断での

服用は避け、医師・薬剤師に相談することとなっています。

(3) 高齢者では、生理機能が低下したり、何らかの疾患を抱えていたりすることが多いため、相談することとなっています。治療中の疾患はないか、服用中の薬剤はないか、必ず確認しましょう。

(4) アレルギー性の副作用を起こしやすいと考えられます。

(5) 過去に、どのような薬でアレルギー症状を起こしたことがあるかを確認して、対応しましょう。

(6) 本剤は、抗コリン成分を含むため、膀胱括約筋の収縮が起こって尿が出にくくなり、排尿困難の症状を悪化させるおそれがあります。前立腺肥大のある人も注意が必要です。

(7) 本剤は、抗コリン成分を含むため、心悸亢進や頻脈などがみられることがあり、心臓病を悪化させるおそれがあります。また、瞳孔括約筋や毛様体筋弛緩による視調節障害や散瞳、眼圧上昇などがみられることもあり、緑内障を悪化させるお



### 相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください

(1) 医師の治療を受けている人。(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。(3) 高齢者。(4) 本人又は家族がアレルギー体質の人。(5) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(6) 次の症状のある人。 排尿困難 (7) 次の診断を受けた人。 心臓病、緑内障

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください

(1) 服用後、次の症状があらわれた場合。

関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
精神神経系	頭痛
その他	顔のほてり、異常なまぶしさ、排尿困難

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック(アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさがあらわれる。

(2) 5～6回服用しても症状がよくなる場合。

3. 次の症状があらわれることがあるので、このような症状の継続又は増強がみられた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談してください

便秘、口のかわき

© 登録商標

それがあります。

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください

(1) 人によっては起こることのある副作用です。皮ふの症状はアレルギー症状によるもの、精神神経経やその他の症状は抗コリン作用によるものと考えられますが、これらの症状があらわれた場合には、服用を中止し、添付文書を持参の上、医師や薬剤師に相談するよう勧めて下さい。また、まれに、重篤な副作用として、ショック（アナフィラキシー）が起こることがあります。服用後すぐにじんましんや浮腫、息苦しさなどがみられた場合は、直ちに医療機関に連絡をし、医師の診療を受けて下さい。

(2) 5～6回服用しても改善しない場合は、他の疾患や重篤な胃腸障害のおそれがあります。また長期にわたって服用すると思わぬ副作用が現われる場合もあります。漫然と服用せず、早めに受診することが大切です。

3. (次の症状があらわれることがあるので、このような症状の継続又は増強がみられた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談してください)

本剤の服用により、便秘や口のかわきがみられることがあります。抗コリン作用によるものと思われる

**■ 効能・効果**

胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癩）、胃酸過多、胸やけ

**■ 用法・用量**

次の1回量を1日3回を限度として服用します。服用間隔は4時間以上おいてください。

年 齢	成人（15才以上）	15才未満
1回量	1錠	服用しないこと

**<用法・用量に関連する注意>**

(1)用法・用量を厳守してください。

(2)錠剤の取り出し方  
右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押し、裏面のアルミ箔を破り、取り出しをお飲みください。（誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さるなど思わぬ事故につながります。）

  
PTPシートの取り出し図

**■ 成 分** 1錠（1回量）中

ブチルスコポラミン臭化物 …………… 10mg  
添加物として、乳糖、白糖、マクロゴール、アラビアゴム、カルナウバロウ、サラシミツロウ、ステアリン酸Mg、セラック、タルク、酸化チタン、トウモロコシデンプン、ラウリル硫酸Na、酒石酸を含有します。

**■ 保管及び取扱い上の注意**

(1)直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。  
(2)小児の手の届かない所に保管してください。(3)他の容器に入れかえないでください。誤用の原因になったり品質が変わることがあります。(4)使用期限をすぎたものは服用しないでください。

ますが、これらの症状継続・増強する場合は、服用を中止して、医師・薬剤師に相談するように伝えます。その際、便秘薬などを勧めることは避けましょう。

■ 効能・効果

本剤は、主に突然の激しい胃痛や腹痛に用いられます。抗コリン成分が、胃腸の働きを抑制するため、食べ過ぎ・飲み過ぎなどによる腹痛や胃もたれ、食欲不振、消化不良などには適しません。顧客の症状をよく聞いて、選択するようにしましょう。

■ 用法・用量

本剤は、症状があつてつらいときにだけ服用するものです。ここで定められた1回量、服用間隔、服用回数を厳守するように伝えましょう。たくさん服用したからといって効果が上がるわけではなく、むしろ、思わぬ副作用が発現する場合があります。

■ 成分

ブチルスコポラミン臭化物は、抗コリン作用をもつ成分で、過剰な胃の動きや胃酸の分泌を抑えることで、胃痛や腹痛をやわらげます。

■ 保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光や高温、多湿は薬の変質の原因となります。窓際やストーブのそばなどには置かないように注意しましょう。
- (2) 小児は、好奇心から何にでも手を出し口に入れてしまうおそれがあります。誤飲などの事故を避けるため、小児の手の届かないところに保管しましょう。
- (3) 他の容器に移し替えてしまうと、何の薬かわからなくなったり、不衛生になったりとさまざまな不具合が起こります。もとの箱に入れたまま、添付文書と一緒に保管するように伝えましょう。
- (4) 薬に記載されている使用期限は未開封の状態のもので、これを過ぎたものは使用しないようにアドバイスしましょう。

## 「新三共胃腸薬 プラス 細粒」

### 使用上の注意

#### してはいけないこと

1. 次の人は服用しないで下さい

本剤には、アルミニウムを含むケイ酸アルミン酸マグネシウム、合成ヒドロタルサイト、アルジオキサが配合されています。透析療法を受けている人が服用すると、アルミニウム脳症やアルミニウム骨症を起こすおそれがあるため、服用しないこととなっています。

2. 長期連用しないで下さい

本剤を服用してもよくなるおそれがないときや症状を繰り返すときなどは、漫然と本剤を服用することは避け、受診することを勧めましょう。

 使用上の注意

 **してはいけないこと**

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

1. 次の人は服用しないで下さい  
透析療法を受けている人
2. 長期連用しないで下さい

 **相談すること**

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談して下さい
  - (1) 医師の治療を受けている人
  - (2) 本人又は家族がアレルギー体質の人
  - (3) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人
  - (4) 次の診断を受けた人  
腎臓病
2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この説明文書を持って医師又は薬剤師に相談して下さい
  - (1) 服用後、次の症状があらわれた場合
 

関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
  - (2) 2週間位服用しても症状がよくなる場合
3. 次の症状があらわれることがありますので、このような症状の継続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談して下さい  
便秘、下痢



#### 相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談して下さい

(1) 現在の症状が、治療中の病気による可能性、または服用中の薬剤の副作用による可能性があります。本剤が治療中の病気や服用中の薬剤に影響を及ぼすことも考えられます。

(2) アレルギー性の副作用を起こしやすいと考えられます。

(3) 過去にどのような薬でアレルギー症状を起こしたかを確認して対応しましょう。

(4) 本剤には、アルミニウム、マグネシウムが含まれています。腎臓が悪いとこれらの排泄が遅延するおそれがあります。

2. 次の場合は直ちに服用を中止し、この説明文書を持って医師又は薬剤師に相談して下さい

(1) アレルギー症状のおそれがあります。これらの症状がみられたときには、すぐに服用を中止し、医師・薬剤師に相談するように伝えましょう。

(2) 2週間服用しても改善しない場合は、他の疾患や重篤な胃腸障害のおそれがあります。また長期にわたって服用すると思わぬ副作用が現われる場合もあります。漫然と服用せず、早めに受診することが大切です。

3. 次の症状があらわれることがありますので、このような症状の継続又は増強がみられた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談してください

本剤の服用により、便秘や下痢がみられることがあります。これらの症状が継続・増強する場合は、服用を中止して、医師・薬剤師に相談するように伝えます。その際、便秘薬や下痢止めなどを安易に勧めることは避けましょう。

■ 効能・効果

本剤は、さまざまな胃腸症状に効能・効果をもつ総合胃

■ 効能・効果

- もたれ、食べ過ぎ、飲み過ぎ、胸つかえ、食欲不振
- 胸やけ、胃痛、胃酸過多、胃重、胃部不快感、げっぷ
- 消化不良、消化促進、胃弱、胃部・腹部膨満感
- はきけ(むかつき、二日酔・悪酔のむかつき、悪心)、嘔吐
- 整腸(便通を整える)、軟便、便秘

■ 用法・用量

年齢	1回服用量	1日服用回数
15歳以上	1包	3回 食後に服用して下さい
11歳以上15歳未満	2/3包	
8歳以上11歳未満	1/2包	
5歳以上8歳未満	1/3包	
3歳以上5歳未満	1/4包	
3歳未満	服用しないで下さい	

〈用法・用量に関連する注意〉

1. 用法・用量を厳守して下さい。
2. 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させて下さい。

■ 成分

《新三共胃腸薬 プラス 細粒》は、白色～わずかに黄褐色を帯びた白色の細粒と淡褐色～褐色の細粒の分包品で、特異なおいがあり、3包(1包1.3g)中に次の成分を含有しています。

成分	含量 (3包中)	作用
タカザスターゼN1	150mg	広いpH域で働く消化酵素で、消化を助け、栄養の吸収をよくします
リパーゼAP12	60mg	脂肪消化酵素で胃の消化機能を助けます
有胞子性乳酸菌 (ラクボン原末)	60mg	乳酸菌の胞子を製剤化したもので、安定性がよく、服用後は腸管内で繁殖して腐敗菌などの有害細菌の増殖を抑えて、整腸作用を発揮します
ケイ酸アルミン酸 マグネシウム	900mg	持続的・遠効的な制酸作用により、胸やけ、げっぷなどの過酸症状を改善します
合成ヒドロタルサイト	600mg	
沈降炭酸カルシウム	600mg	
オウバク末	105mg	味や香りによって味覚を刺激し、胃液や消化液の分泌を調節し、消化を助けます
ケイヒ末	225mg	
ショウキョウ末	75mg	
チョウジ末	30mg	
ウイキョウ末	60mg	
トメントール	9mg	胃粘膜のあれやただれの修復を助けます
アルジオキサ	60mg	
カンゾウ末	150mg	

添加物：セルロース、乳糖、ポリソルベート80、ヒドロキシプロピルセルロース、サンシロウ

■ 保管及び取扱い上の注意

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。
2. 小児の手の届かない所に保管して下さい。
3. 他の容器に入れ替えないで下さい(誤用の原因になったり品質が変わります。)
4. 1包を分割した残りを使用する場合には、袋の口を折り返して保管し、2日以内に服用して下さい。
5. 使用期限を過ぎた製品は服用しないで下さい。

腸薬です。症状がいくつかあるとき、何となく調子が悪いとき、常備薬的な胃腸薬を希望されるときなどに用いることができます。しかし、空腹時の胃痛や突然の強い胃痛、下痢、慢性的な便秘など、他の薬を選んだほうがよい場合も少なくありません。顧客の症状をよく聞いて、選択するようにしましょう。

■用法・用量

ここで定められた1回量、1日の服用回数を守るように伝えましょう。何度も服用したからといって効果が上がるわけではなく、むしろ、思わぬ副作用が発現する場合があります。

■成分

本剤は、消化酵素、乳酸菌、制酸成分、健胃生薬、胃腸粘膜保護・修復成分と、さまざまな成分を配合しています。特に健胃生薬は、苦味や芳香によって味覚や嗅覚を刺激して、反射的に唾液や胃液の分泌を促がします。オブラートに包んで服用するのは避けるように伝えましょう。

■保管及び取扱い上の注意

1. 直射日光や高温、多湿は薬の変質の原因となります。窓際やストーブのそばなどには置かないように注意しましょう。
2. 小児は、好奇心から何にでも手を出し口に入れてしまうおそれがあります。誤飲などの事故を避けるため、小児の手の届かないところに保管しましょう。
3. 他の容器に移し替えてしまうと、何の薬かわからなくなったり、不衛生になったりとさまざまな不具合が起こります。もとの箱に入れたまま、添付文書と一緒に保管するように伝えましょう。
4. 薬が湿気を帯びたり、ゴミが入ったりしないように、袋の口を折り返して保管し、2日間以内に服用しましょう。
5. 薬に記載されている使用期限は未開封の状態のものです。これを過ぎたものは使用しないようにアドバイスしましょう。

## 「コーラックⅡ」

### 使用上の注意

 してはいけないこと

- ①他の瀉下薬を併用すると、成分や作用が重複するため、作用が強くなりすぎたり、副作用が現われやすくなったりするおそれがあります。
- ②大量に服用すると、作用が強くなり、激しい下痢や腹痛、脱水、電解質喪失、虚脱などの症状が現れることが考えられます。特に本剤のような大腸刺激性の瀉下薬の場合、腸管運動の促進作用が強くなり、腹痛、悪寒・嘔吐、腹鳴などの消化器症状が強くなり、おそれがあります。高齢者では、普段から水分が不足している人が多く、瀉下剤の過度の使用では脱水症状を起こす危険性も高く、注意が必要となります。



### 相談すること

- ①次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください
  - (1) 現在の症状が、治療中の病気による可能性、または服用中の薬剤の副作用による可能性があります。本剤が、治療中の病気や服用中の薬剤に影響を与えることも考えられるため、相談することとなっています。
  - (2) 本剤による腸管運動の促進作用により、流産や早産を引き起こすおそれがあります。なお、センナやダイオウ、アロエなどでは、骨盤内の充血を生じ、子宮収縮の誘発により、流産や早産の危険があるともいわれています。
  - (3) 便秘を伴うこれらの症状は、急性腹症（腸管の狭窄・閉塞、腹腔内器官の炎症など）の可能性があり、瀉下薬は、腸管の運動を促進させて排便を促すため、



### 使用上の注意



必ず読むこと!

 してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

- ① 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください  
他の瀉下薬(下剤)
- ② 大量に服用しないでください



### 相談すること



- ① 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください
  - (1) 医師の治療を受けている人。
  - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
  - (3) 次の症状のある人。  
はげしい腹痛、悪心・嘔吐
- ② 次の場合は、直ちに服用を中止し、この説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください
  - (1) 服用後、次の症状があらわれた場合。
 

関係部位	症 状
消化器	はげしい腹痛、悪心・嘔吐
  - (2) 1週間位服用しても症状がよくなる場合。
- ③ 次の症状があらわれることがあるので、このような症状の継続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談してください  
下痢

瀉下薬の服用により、急性腹症の症状が悪化し、治癒が遅れる可能性が考えられます。便秘であっても、これらの症状を伴うときには、安易に瀉下薬を勧めないように注意しましょう。

②次の場合は、直ちに服用を中止し、この説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください

(1) これらの症状がみられた場合は、本剤の作用が強く出過ぎているか、服用量が多すぎる可能性が考えられます。また、本剤によるものではなく、他の疾患による症状の可能性もあるため、注意が必要です。

(2) 一週間ぐらい服用しても症状が改善しない場合は、他の疾患の可能性もあるため、受診を勧めるようにしましょう。また、本剤は、習慣性や「なれ」を生じるおそれがあるため、長期服用は避ける必要があります。

③本剤の作用が強く出過ぎているか、他の疾患の可能性も考えられるため、相談することとなっています。

#### ■効能

便秘でも、コロコロした便が出る痙攣性便秘（ストレス性の便秘）には適しません。便秘の程度や便の状態などをきいて、選択するようにしましょう。

#### ■用法・用量

##### [注意]

(1) 用法・用量を守らないと、十分な効果が得られなかつ

効 能			
○便秘			
○便秘に伴う次の症状の緩和： 頭重、のぼせ、肌あれ、吹出物、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常発酵、痔			
用法・用量			
次の量を就寝前(又は空腹時)に水またはぬるま湯で服用してください。ただし、初回は最小量を用い、便通の具合や状態をみながら少しずつ増量又は減量してください。			
年 令	15才以上	11~14才	11才未満
1 回 量	1~3錠 ●~●●●●	1~2錠 ●~●●●	服用しないこと ×
服用回数	1日1回		
[注意]			
(1) 定められた用法・用量を厳守してください。			
(2) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。			
(3) 制酸剤や牛乳をのんでから1時間以内の服用はさけてください。(本剤は制酸剤や牛乳によって胃内で溶解し、期待された効果を発揮できないことがあります)			
(4) 錠剤をかんだり、つぶしたりせずにそのまま服用してください。(本剤は有効成分がその能力を十分に発揮し、大腸内で作用するよう特殊なコーティングをほどこしています)			
(5) 錠剤の取り出し方 図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用してください。(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります)			

(錠剤の取り出し図)  
おしだす

- たり、作用が強くと出過ぎて下痢や腹痛などを引き起こしたりするおそれがあります。初回は1錠だけ服用し、便の具合をみながら、調節していくように伝えましょう。
- (2) 11歳以上の小児が服用する場合は、誤った使い方をしないよう、保護者が指導監督を行って下さい。また、11歳未満の小児には服用させないように注意してください。
- (3) 制酸剤や牛乳をのんだ後は、胃内のpHが中性～アルカリ性に傾くため、腸で溶けるはずの本剤が胃で溶けてしまいます。そうになると、十分な効果が得られなくなるだけでなく、本剤の成分が胃を刺激して、悪心・嘔吐、胃部不快感などを生じることもあります。
- (4) 本剤は、腸で溶けて腸で作用するように、コーティングされています。錠剤をかんだり、つぶしたりすると、このコーティングの効果が発揮されなくなりますから、錠剤のまま、水やぬるま湯で飲むように伝えて下さい。

成 分		
3錠中		
成 分	分 量	はたらき
ピサコジル	15mg	大腸を直接刺激して、低下している腸のぜん動運動を高めます。
ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DSS)	24mg	硬くなった便に水分を浸透させて適度に軟らかくします。
<small>添加物：乳糖、無水ケイ酸、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸Mg、アラビアゴム、白糖、タルク、酸化チタン、メタクリル酸共重合体S、メタクリル酸共重合体L、ヒマシ油、赤色3号、マクロゴール、カルナウバロウ、サラシミツロウ</small>		
保管及び取扱い上の注意		
(1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。 (2) 小児の手のとどかない所に保管してください。 (3) 他の容器に入れかえないでください。(誤用の原因になったり品質が変わることがあります) (4) 使用期限を過ぎた製品は服用しないでください。		

#### ■成分

- ・ピサコジル：大腸刺激性下剤で、結腸や直腸粘膜の副交感神経を直接刺激することにより、腸の蠕動運動を高め、腸粘膜を直接刺激して排便反射を促します。習慣性があるため、長期連用しないように伝えましょう。
- ・ジオクチルソジウムスルホサクシネート：腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増やして柔らかくすることによって排便を促します。

#### ■保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光や高温、多湿は薬の変質の原因となります。窓際やストーブのそばなどには置かないように注意しましょう。
- (2) 小児は、好奇心から何にでも手を出し口を入れてしまうおそれがあります。誤飲などの事故を避けるため、小児の手の届かないところに保管しましょう。

- (3) 他の容器に移し替えてしまうと、何の薬かわからなくなったり、不衛生になったりとさまざまな不具合が起こります。もとの箱に入れたまま、添付文書と一緒に保管するように伝えましょう。
- (4) 薬に記載されている使用期限は、未開封の状態でのものです。これを過ぎたものは使用しないようにしましょう。

## 「新センロック錠」

### ⚠ 使用上の注意

#### ⊗ してはいけないこと

1. 次の人は服用しないでください

フェルニケトン尿症は、新生児約7万人に1人の割合で発見される先天性異常であり、必須アミノ酸の一つであるフェニルアラニンをチロシンに転換する酵素に欠陥があります。通常、出生時の検査でわかりますが、食事中的フェニルアラニンの量を制限しなければなりません。本剤に含まれるアスパルテームは、フェニルアラニン化合物であるため、服用しないように注意が必要です。

2. 本剤を服用している間は、

次の医薬品を服用しないでください

本剤に含まれるロートエキスには、抗コリン作用があります。胃腸鎮痛鎮痙薬にも、抗コリン成分が配合されていることが多く、両者を一緒に服用すると、抗コリン成分が重複する可能性があるため、併用しないこととなっています。販売時には、他に服用している薬はないか、必ず確認しましょう。

3. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください

吸収されたロートエキスの一部が乳汁中に移行し、乳児に頻脈がみられることがあります。

**使用上の注意**

**⊗ してはいけないこと**

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

1. 次の人は服用しないでください  
フェルニケトン尿症の人  
(本剤はL-フェニルアラニン化合物を含有するため)
2. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください  
胃腸鎮痛鎮痙薬
3. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください  
(母乳に移行して乳児の脈が速くなることがあります)

**相談すること**

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談して下さい  
(1) 医師の治療を受けている人  
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人  
(3) 高齢者  
(4) 本人又は家族がアレルギー体質の人  
(5) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人  
(6) 次の症状のある人  
排尿困難  
(7) 次の診断を受けた人  
腎臓病, 心臓病, 緑内障, 血栓のある人(脳血栓, 心筋梗塞, 血栓静脈炎等), 血栓症を起こすおそれのある人
2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この説明文書を持って医師又は薬剤師に相談して下さい  
(1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤, かゆみ
消化器	はきけ, 胃・腹部膨満感

- (2) 2週間位服用しても症状がよくならない場合

3. 次の症状があらわれることがあるので、このような症状の継続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談して下さい  
□のかわき, 便秘, 下痢

**その他の注意**

母乳が出にくくなる場合があります



### 相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談して下さい
  - (1) 現在の症状が、治療中の病気による可能性、または服用中の薬剤の副作用による可能性があります。
  - (2) 妊娠中の強い胃痛・腹痛は、妊娠の異常など他の原因も考えられるため、自己判断での服用は避け、医師・薬剤師に相談することとなっています。
  - (3) 高齢者では、生理機能が低下していたり、何らかの疾患を抱えていたりすることが多いため、相談することとなっています。治療中の疾患はないか、服用中の薬剤はないか、必ず確認しましょう。
  - (4) アレルギー性の副作用を起こしやすいと考えられます。
  - (5) 過去に、どのような薬でアレルギー症状を起こしたことがあるかを確認して、対応しましょう。
  - (6) 本剤は、抗コリン成分を含むため、膀胱括約筋の収縮が起こって尿が出にくくなり、排尿困難の症状を悪化させるおそれがあります。前立腺肥大のある人も注意が必要です。
  - (7) 腎臓病：本剤は、カルシウムやマグネシウムを含む制酸成分を配合しているため、腎臓病の人では、その排泄が遅れる可能性があります。  
心臓病：本剤は、抗コリン成分を含むため、心悸亢進や頻脈などがみられることがあります、心臓病を悪化させるおそれがあります。  
緑内障：瞳孔括約筋や毛様体筋弛緩による視調節障害や散瞳、眼圧上昇などがみられることがあります、緑内障を悪化させるおそれがあります。  
血栓のある人、血栓症を起こすおそれのある人：本剤に含まれるセトラキサート塩酸塩は、体内で、止血作用のあるトラネキサム酸に代謝されるため、血栓を安定化させたり、血栓症を起こしやすくしたりするおそれがあります。
2. 次の場合は直ちに服用を中止し、この説明文書を持って医師又は薬剤師に相談してください。
  - (1) 人によっては起こることのある副作用です。これらの症状が見られた場合には、服用を中止し、添付文書を持参の上、医師や薬剤師に相談するよう伝えて下さい。
  - (2) 2週間くらい服用しても症状が改善しない場合は、他の疾患や重篤な胃腸障害のおそれがあります。また長期にわたって服用すると思わぬ副作用が現われる場合もあります。漫然と服用せず、早めに受診するよう伝えて下さい。

3. 本剤の服用により、便秘や口のかわきがみられることがあります。便秘や口のかわきは抗コリン作用によるものと思われませんが、これらの症状が継続・増強する場合は、服用を中止して医師・薬剤師に相談するように伝えて下さい。また、相談があったときは、安易に便秘薬などを勧めることは避けましょう。

**その他の注意**

ロートエキスにより、母乳が出にくくなる場合があります。

**■効能・効果**

本剤は、主に空腹時にみられる胃もたれ、胃痛、胸やけなどに用いられます。食べ過ぎによる腹痛や胃もたれ、食欲不振、消化不良などには適していません。顧客の症状をよく聞いて、選択するようにしましょう。

**■用法・用量**

本剤は、空腹時の症状をやわげるため、食間（食後2時間くらい）または寝る前に服用するように、説明して下さい。

**■成分**

・セトラキサート塩酸塩：胃腸粘膜保護・修復成分です。体内でトラネキサム酸になるので、血栓のある人、血栓症を起こすおそれのある人は注意が必要です。ま

**効能・効果**

胃もたれ、胃の痛み、飲みすぎ、胃部不快感、胃部膨満感、胃重、胸つかえ、胸やけ、げっぷ、はきけ(むかつき、嘔気、二日酔・悪酔のむかつき)、嘔吐、胃酸過多






胃もたれ
胃の痛み
飲みすぎ
胸やけ

**用法・用量**

次の量を食間又は就寝前に服用して下さい。

年齢	1回量	1日服用回数
成人(15歳以上)	3錠	3回
15歳未満	服用しないで下さい	

(食間とは、食事の約2時間後をいいます。)





朝食の約2時間後に
昼食の約2時間後に
夕食の約2時間後  
又はおやすみ前に

**〈用法・用量に関連する注意〉**  
用法・用量を厳守して下さい。

**成分**

1日量(9錠)中

成分	含量	作用
セトラキサート塩酸塩	600mg	胃粘膜の血流を増やして、荒れた胃粘膜を修復する
ロートエキス3倍散	90mg	胃の痛みやけいれんを鎮め、胃液の分泌も抑える
(ロートエキスとして30mg)		
沈降炭酸カルシウム	1,200mg	出過ぎた胃酸を中和し、胃の不快感をやわげる
水酸化マグネシウム	300mg	

添加物：パレイショデンブン、エリスリトール、ヒドロキシプロピルセルロース、トウモロコシデンブン、l-メントール、無水ケイ酸、ステアリン酸Mg、アスパルテーム(L-フェニルアラニン化合物)

**保管及び取扱い上の注意**

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。  
なお、服用のつどビンのフタをしっかりとめて下さい。
- (2) 小児の手の届かない所に保管して下さい。
- (3) 他の容器に入れ替えないで下さい(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- (4) ビンの中のつめものはフタを開けた後は、取り除いて下さい。
- (5) 使用期限を過ぎた製品は服用しないで下さい。また、一度開封した後は、品質保持の点から6カ月以内に服用して下さい。
- (6) 箱の「開封年月日」記入欄に、開封した日付を記入して下さい。

た、トラネキサム酸は、かぜ薬や口内炎用薬、肝斑治療薬などにも配合されていますから、重複して使用しないように、服用中の薬は必ず確認しましょう。

・ロートエキス：抗コリン作用のある成分で、過剰な胃腸の動きや胃酸の分泌を抑えます。多くの胃腸薬や下痢止めに配合されています。乳児に頻脈が起こるおそれがあるため、授乳中の人には服用しないこととされています。また、母乳が出にくくなることもあります。

沈降炭酸カルシウム、水酸化マグネシウム：いずれも制酸成分で、出過ぎた胃酸を中和します。

■保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光や高温、多湿は薬の変質の原因となります。窓際やストーブのそばなどには置かないように注意しましょう。
- (2) 小児は、好奇心から何にでも手を出し口に入れてしまうおそれがあります。誤飲などの事故を避けるため、小児の手の届かないところに保管しましょう。
- (3) 他の容器に移し替えてしまうと、何の薬かわからなくなったり、不衛生になったりとさまざまな不具合が起こります。もとの箱に入れたまま、添付文書と一緒に保管するように伝えましょう。
- (4) ビンの中のつめものは、運送の際の揺れによる衝撃をやわらげるためのものですから、フタをあけた後は、取り除いてください。
- (5) 薬に記載されている使用期限は、未開封の状態でのものです。これを過ぎたものは使用しないようにしましょう。本剤の場合、開封したら、6ヶ月以内に服用して下さい。
- (6) 箱に開封した日付を記入しておく、使用期限の目安がわかって便利です。本剤以外でも、開封年月日を記載するように勧めるとよいでしょう。

## 「新タントーゼA」

### 使用上の注意

#### してはいけないこと

1. 次の人は服用しないでください

タンニン酸アルブミン中のアルブミンは、牛乳中の蛋白質（カゼイン）から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーのある人は服用しないこととされています。

2. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください

ロートエキスには抗コリン作用がありますが、胃腸鎮痛鎮痙薬にも抗コリン成分が配合されている可能性

が高いと考えられます。そのため、抗コリン成分の重複摂取となるおそれがあり、併用しないこととされています。販売時には、他に服用している薬はないか、必ず確認しましょう。

3. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください

吸収されたロートエキスの一部が乳児汁中に移行し、乳児に頻脈がみられることがあります。



#### 相談すること

1. 次の人は服用前に医師または薬剤師にご相談ください

(1) 現在の症状が、治療中の病気による可能性、または服用中の薬剤の副作用による可能性があります。本剤が、治療中の病気や服用中の薬剤の作用に影響を及ぼすことも考えられます。

 **〔使用上の注意〕**

 **してはいけないこと**  
(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないでください  
本剤または牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人
2. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください  
胃腸鎮痛鎮痙薬
3. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください(母乳に移行して乳児の脈が速くなることもある)

 **相談すること**

1. 次の人は服用前に医師または薬剤師にご相談ください
  - (1) 医師の治療を受けている人
  - (2) 発熱を伴う下痢のある人、血便のある人または粘液便の続く人
  - (3) 急性の激しい下痢または腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人(本剤で無理に下痢を止めるとかえって病気を悪化させることがある)
  - (4) 妊婦または妊娠していると思われる人
  - (5) 高齢者
  - (6) 本人または家族がアレルギー体質の人
  - (7) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人
  - (8) 次の症状のある人：排尿困難
  2. 次の診断を受けた人：心臓病、緑内障
2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師または薬剤師にご相談ください
  - (1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさがあらわれる
- (2) 5～6日間服用しても症状がよくならない場合

- 3. 次の症状があらわれることがありますので、このような症状の継続または増強が見られた場合には、服用を中止し、医師または薬剤師にご相談ください  
口のかわき

**その他の注意**  
 母乳が出にくくなる場合があります

- (2) 発熱を伴う下痢の場合は、細菌やウイルスによる腸内感染症（ビブリオ菌、サルモネラ菌、病原性大腸菌などによる食中毒）、虫垂炎、かぜに伴う下痢などの可能性があります。また、血便や粘液便を伴う下痢の場合は、胃腸出血や大腸の炎症など、他の重篤な疾病の可能性も考えられます。いずれの場合も、早期に専門的な治療を要すると考えられます。
- (3) このような症状のときは、細菌性の下痢や食中毒が疑われます。下痢はからだにとって有害な物質を体外に出そうとする防御反応であり、無理に下痢を止めるとかえって症状を悪化させるおそれがあります。特に本剤は、収斂成分のタンニン酸アルブミンを配合しているため、有害物質の排泄が遅れ、症状を長引かせたり、悪化させたりすることが考えられます。
- (4) ロートエキスは、胎児または新生児に頻脈等が現われることがあります。また、乳汁分泌が抑制されることもあります。
- (5) 高齢者では、生理機能が低下しているため、薬の作用が強くなる場合があります。また、普段から、水分の摂取量が少ない人が多く、下痢によって脱水症状を起こしやすいため注意が必要です。
- (6) アレルギー性の副作用を起こしやすいと考えられます。
- (7) 過去にどのような薬でアレルギー症状を起こしたことがあるかを確認して、対応しましょう。
- (8) 本剤は、抗コリン成分を含むため、膀胱括約筋の収縮が起こって尿が出にくくなり、排尿困難の症状を悪化させるおそれがあります。前立腺肥大のある人も注意が必要です。
- (9) 心臓病：本剤は、抗コリン成分を含むため、心悸亢進や頻脈などがみられることがあります。心臓病を悪化させるおそれがあります。
- 緑内障：瞳孔括約筋や毛様体筋弛緩による視調節障害や散瞳、眼圧上昇などがみられることがあります。緑内障を悪化させるおそれがあります。

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師または薬剤師にご相談ください

- (1) 人によっては起こることのある副作用です。皮ふの症状はアレルギー症状によるもの、精神神経やその他の症状は抗コリン作用によるものと考えられますが、これらの症状があらわれた場合には、添付文書を持参の上、医師や薬剤師に相談するよう勧めて下さい。また、まれに、重篤な副作用として、ショック（アナフィラキシー）が起こることがあります。服用後すぐにじんましんや浮腫、息苦し

さなどがみられた場合は、直ちに医療機関に連絡をし、医師の診療を受けて下さい。

- (2) 5～6回服用しても改善しない場合は、他の疾患や重篤な胃腸障害のおそれがあります。また長期にわたって服用すると思わぬ副作用が現われる場合もあります。漫然と服用せず、早めに受診することが大切です。

3. 次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続または増強がみられた場合には、服用を中止し、医師または薬剤師にご相談ください

本剤の服用により、便秘や口のかわきがみられることがあります。抗コリン作用によるものと思われませんが、これらの症状が継続・増強する場合は、服用を中止して、医師・薬剤師に相談するように伝えます。

**その他の注意**

ロートエキスにより、母乳が出にくくなる場合があります。

**■ 効能**

ただし、症状が相談することの1-(2)  
(3)に当てはまる場合は使用を控え、受診を勧めましょう。

-----【効能】-----

下痢、腹痛を伴う下痢、消化不良による下痢、食あたり、はき下し、水あたり、くだり腹、軟便

-----【用法・用量】-----

次の量を、水またはお湯で服用してください

年 齢	1回量	1日服用回数
15歳以上	4錠	3回まで (服用間隔を4時間以上あけること)
8歳～15歳未満	2錠	
5歳～8歳未満	1錠	
5歳未満	服用しないこと	

(1) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください  
(2) 錠剤の取り出し方  

 図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用してください  
 (誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながる)

-----【成分・分量】-----

本剤は、微紅白色のフィルムコート錠で、12錠中に次の成分を含有する

ベルベリン塩化物水和物…………… 300mg  
 ロートエキス…………… 60mg  
 タンニン酸アルブミン…………… 2000mg  
 ウルソデオキシコール酸…………… 30mg

添加物：ステアリン酸Mg, CMC-Ca, ヒドロキシプロピルセルロース, セルロース, 乳糖水和物, ヒプロメロース, 酸化チタン, マクロゴール, 三二酸化鉄

-----【保管および取扱い上の注意】-----

(1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください  
 (2) 小児の手の届かない所に保管してください  
 (3) 他の容器に入れ替えないでください (誤用の原因になったり、品質が変わる)  
 (4) 外箱に表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないでください

■用法・用量

添付文書参照

■成分

ベルベリン塩化物水和物：腸内殺菌作用のほか、腸の蠕動運動抑制作用、インドールやスカトール等の産生抑制による腸内腐敗・発酵抑制作用を有するとされます。

ロートエキス：消化管の過剰な運動を抑えます。また、腹痛をやわらげます。

タンニン酸アルブミン：腸粘膜の蛋白質と結合して不溶性の膜をつくり、腸粘膜をひきしめる（収斂する）ことにより、腸粘膜を保護し、炎症を鎮めます。

ウルソデオキシコール酸：脂質の消化・吸収を助けます。

■保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光や高温、多湿は薬の変質の原因となります。窓際やストーブのそばなどには置かないように注意しましょう。
- (2) 小児は、好奇心から何にでも手を出し口に入れてしまうおそれがあります。誤飲などの事故を避けるため、小児の手の届かないところに保管しましょう。
- (3) 他の容器に移し替えてしまうと、何の薬かわからなくなったり、不衛生になったりとさまざまな不具合が起こります。もとの箱に入れたまま、添付文書と一緒に保管するように伝えましょう。
- (4) 薬に記載されている使用期限は未開封の状態のもので、これを過ぎたものは使用しないようにアドバイスしましょう。

## 「ガスター10 S錠」


**使用上の注意**

**⊗ してはいけないこと** (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないでください

- (1) ファモチジン等のH<sub>2</sub>ブロッカー薬によりアレルギー症状(例えば、発疹・発赤、かゆみ、のど・まぶた・口唇等のはれ)を起こしたことがある人。
- (2) 医療機関で次の病気の治療や医薬品の投与を受けている人。  
 血液の病気、腎臓・肝臓の病気、心臓の病気、胃・十二指腸の病気、ぜんそく・リウマチ等の免疫系の病気、ステロイド剤、抗生物質、抗がん剤、アゾール系抗真菌剤  
 (白血球減少、血小板減少等を起こすことがあります。)  
 (腎臓・肝臓の病気を持っている場合には、薬の排泄が遅れて作用が強くなりあられることがあります。)  
 (心筋梗塞・弁膜症・心筋症等の心臓の病気を持っている場合には、心電図異常を伴う脈のみだれがあらわれることがあります。)  
 (胃・十二指腸の病気の治療を受けている人は、ファモチジンや類似の薬が処方されている可能性が高いため、重複服用に気をつける必要があります。)  
 (アゾール系抗真菌剤の吸収が低下して効果が減弱します。)
- (3) 医師から赤血球数が少ない(貧血)、血小板数が少ない(血が止まりにくい、血が出やすい)、白血球数が少ない等の血液異常を指摘されたことがある人。(本剤が引き金となって再び血液異常を引き起こす可能性があります。)
- (4) フェニルケトン尿症の人。(本剤はアスパルテーム(L-フェニルアラニン化合物)を含んでいます。)
- (5) 小児(15歳未満)および高齢者(80歳以上)。
- (6) 妊婦または妊娠していると思われる人並びに授乳中の人。

2. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください  
 他の胃腸薬

### 使用上の注意

#### **⊗ してはいけないこと**

##### 1. 次の人は服用しないでください

(1) 今までにH<sub>2</sub>ブロッカーでアレルギー症状をおこしたことがある人が、再び服用すると、さらに強いアレルギー症状を起こすおそれがあります。

(2) 血液の病気：H<sub>2</sub>ブロッカーの副作用の一つに白血球減少や血小板減少などの血液障害があります。発症頻度は低いものの、起こった場合、重症化するケースもあります。

腎臓の病気：H<sub>2</sub>ブロッカーの代謝や排泄が遅れ、血中濃度が上昇し、作用が強くなりあられることがあります。

心臓の病気：心電図の異常を伴う脈の乱れが現われることがあります。

胃・十二指腸の病気：本剤と類似の薬で治療を受けている可能性があるため、重複服用になる可能性があります。

ぜんそく・リウマチ等の免疫系の病気、ステロイド剤、抗生物質、抗がん剤：H<sub>2</sub>ブロッカーによる血液障害の発現では、ぜんそく・リウマチ等との合併症やステロイド剤・抗生物質・抗がん剤との併用例が知らされています。ただし、抗がん剤については告知されているかどうかの問題もあるため、疾病や併用薬の有無などを確認して、服用する人の背景を把握することが大切です。

アゾール系抗真菌薬：塩酸塩となって可溶化し、吸収されるため、胃内pHの上

昇は吸収を抑制することになります。

- (3) H<sub>2</sub>ブロッカーの服用により、貧血等の症状が悪化したり、服用が引き金となって、再び血液障害を引き起こす可能性があります。
- (4) 本剤は、Lフェニルアラニン化合物のアスパルテームを含んでいます。
- (5) ファモチジンの医療用医薬品の添付文書には、「小児に対する安全性が確立していない」と記載されています。また、80歳以上の高齢者では一般に、肝・腎機能が低下していることが多いため、代謝や排泄が遅れ、作用が強く現われるおそれがあります。
- (6) ファモチジンの医療用医薬品の添付文書には「妊娠中の投与に関する安全性は確立されていない」、また、「授乳婦に投与するときは、授乳させないように注意すること（母乳中に移行することが報告されている）」と記載されています。

## 2. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください

他の胃腸薬を同時に服用すると、作用が強く現われるなど、予期せぬ副作用が起きる可能性があります。



### ■ 相談すること

#### 1. 次の人は服用前に医師または薬剤師にご相談ください

- (1) 医師の治療を受けている場合は、現在の症状が、治療中の病気による可能性があります。また、服用中の薬剤の副作用である場合も考えられます。本剤の服用が、治療中の病気や服用中の薬剤に、影響を与えるおそれもあります。
- (2) アレルギー性の副作用を起こしやすいと考えられるため、相談することとなっています。
- (3) 過去に、どのような薬でアレルギー症状を性的副作用を起こしたかを確認して、対応しましょう。
- (4) 高齢者の生理機能の低下には個人差があるため、80歳に満たない65歳以上の高齢者においても、肝・腎機能が低下していることがあります。
- (5) ・のどの痛み・咳・高熱：重篤な感染症の可能性があります。服用前にこのような症状があると、H<sub>2</sub>ブロッカーの服用により症状が悪化する可能性があります。また、血液障害の初期症状の場合もあり、発見が遅れると、重篤な症状に至るおそれもあります。
  - ・原因不明の体重減少：体重の減少を来す病気には、がん、糖尿病、甲状腺機能

亢進症などさまざまなものがあります。ここで特に気をつけたいのが胃がんです。H2ブロッカーの服用により、胃がんの症状が隠ぺいされることがあるといわれています。原因不明の体重減少がある場合は、医師の診察を受けるように勧めましょう。

- ・ 持続性の腹痛：腹痛は、胃だけではなく、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓などさまざまな疾患の症状として現われます。例えば胆石、腎結石、膵炎、狭心症、心筋梗塞などでも腹痛が起こる場合があります。原疾患によって痛みの現われる部位や痛みの程度は異なり、中には下痢や吐き気を伴うものもあります。販売時には、腹痛の症状についてよく聞き、思い当たる原因（食べ過ぎ、飲み過ぎ、消化性潰瘍の経験）などがなく、痛みが続いている場合や判断のつきにくい場合は、医師の診察を受けるように勧めることが大切です。

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師または薬剤師にご相談ください。

- (1) 人によっては起こることのある副作用です。これらの症状があらわれた場合には、添付文書を持参の上、医師や薬剤師に相談するように勧めて下さい。まれではありますが、表に示されたような重篤な副作用が起こることがあります。表に記載されたような症状が現われた場合は、直ちに服用を中止し、速やかに医師の

相談すること

**1. 次の人は服用前に医師または薬剤師にご相談ください**

(1) 医師の治療を受けている人または他の医薬品を服用している人。(2) 本人または家族がアレルギー体質の人。(3) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(4) 高齢者(85歳以上)。(一般に高齢者は、生理機能が低下していることがあります。)(5) 次の症状のある人。のどの痛み、咳および高熱(これらの症状のある人は、重篤な感染症の疑いがあり、血球数減少等の血液異常が認められることがあります。服用前にこのような症状があると、本剤の服用によって症状が増悪し、また、本剤の副作用に気づくのが遅れることがあります。)原因不明の体重減少、持続性の腹痛(他の病気が原因であることがあります。)

**2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師または薬剤師にご相談ください**

(1) 服用後、次の症状があらわれた場合。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ、はれ
循 環 器	脈のみだれ
精神神経系	気がとおくなる感じ、ひきつけ(けいれん)
そ の 他	気分が悪くなったり、だるくなったり、発熱してのどが痛いなど体調異常があらわれる。

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しき等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の激しい症状が、全身の皮膚、口や目の粘膜にあらわれる。
横紋筋融解症	手足やからだの筋肉が痛んだりこわばったりする、尿の色が赤褐色になる。
肝機能障害	全身のだるさ、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)等があらわれる。
腎機能障害	発熱、発疹、全身のむくみ、血尿、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。
血液障害	のどの痛み、発熱、全身のだるさ、顔やまぶたのうらが白っぽくなる、出血しやすくなる(歯茎の出血、鼻血等)、青あざができる(押しても色が消えない)等があらわれる。

(2) 誤って定められた用量を超えて服用してしまった場合。

**3. 次の症状があらわれることがありますので、このような症状の継続または増強がみられた場合には、服用を中止し、医師または薬剤師にご相談ください** 便秘、軟便、下痢、口のかわき

診療を受けるように勧めて下さい。ただし、これらも最初から重篤な症状として現われるわけではありません。発疹、目や口の中の違和感、尿の色が濃くなったなど、いつもと異なる症状が出たときにはすぐに服用をやめて医師や薬剤師に相談していただくことが大切です。

**皮膚粘膜眼症候群**：最初に報告した二人の医師の名前にちなんで、スティーブンス・ジョンソン症候群（SJS）とも呼ばれる。高熱（38℃以上）を伴って、発疹・発赤、火傷様の水疱等の激しい症状が、比較的短時間に全身の皮膚、口、目の粘膜に現われる。発生頻度は、人口100万人あたり、年間1～6人と報告されている。

**中毒性表皮壊死症（TEN）**：最初に報告した医師の名前にちなんで、ライエル症候群とも呼ばれる。全身が広範囲にわたって赤くなり、全身の10%以上の火傷様の水疱、皮膚の剥離、びらん等が認められ、かつ、高熱、（38℃以上）、口唇の発赤・びらん・目の充血等の症状を伴う。SJSと関連のある病態と考えられており、TENの症例の多くがSJSの進展型とみられる。発生頻度は、人口100万人あたり、年間0.4～1.2人と報告されている。

（2）誤って定められた用量を超えて服用してしまった場合には、思わぬ副作用を招くことがあります。すぐに、医師・薬剤師に連絡していただくようにしましょう。

3. 次の症状があらわれることがありますので、このような症状の継続または増強がみられた場合には、服用を中止し、医師または薬剤師にご相談ください

便秘や軟便、下痢、口の渇きなどがみられることあり、これらの症状が継続・増

効能・効果		
胃痛、胸やけ、もたれ、むかつき（本剤はH2ブロッカー薬を含んでいます。）		
〈効能・効果に関連する注意〉		
効能・効果に記載以外の症状では、本剤を服用しないでください。		
用法・用量		
胃痛、胸やけ、もたれ、むかつきの症状があらわれた時、次の量を、口中で溶かして服用するか、水またはお湯で服用してください。		
年齢	1回量	1日服用回数
15歳～80歳未満	1錠	2回まで
15歳未満	服用しないこと	
80歳以上		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・服用後8時間以上たっても症状が治まらない場合は、もう1錠服用してください。</li> <li>・症状が治まった場合は、服用を止めてください。</li> <li>・3日間服用しても症状の改善がみられない場合は、服用を止めて、医師または薬剤師にご相談ください。</li> <li>・2週間を超えて続けて服用しないでください。</li> </ul>		
〈用法・用量に関連する注意〉		
(1) 用法・用量を厳守してください。		
(2) 本剤は口腔内で容易に崩壊しますが、口腔の粘膜から吸収されることはないため、唾液または水で飲み込んでください。通常の錠剤と同様、水やお湯で服用しても効果に変わりはありません。		
(3) 本剤を服用の際は、アルコール飲料の摂取は控えてください。（お薬はアルコール飲料と併用しないのが一般的です。）		
(4) 錠剤の取り出し方		
右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押し、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用してください。（誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながる。）		



おしだす ↓

強する場合には注意が必要です。安易に、便秘薬や下痢止めなどを勧めたりしないようにしましょう。

#### ■ 効能・効果

本剤は胃痛、胸やけ、もたれ、むかつきに用いられます。特に空腹時や早朝に症状がみられるものに適しているとされています。

食べ過ぎによる腹痛や胃もたれ、消化不良などには適しませんので、顧客の症状をよく聞いて選択するようにして下さい。

#### ■ 用法・用量

本剤は、症状が辛いときだけ服用するもので、1回の服用量、服用間隔、1日の服用回数を厳守するように伝えてください。

- ・ 3日間服用しても、症状の改善がみられない場合は、胃がんや心疾患、胆石など、他の疾患の可能性も考えられます。医師の診察を受けるように伝えましょう。
- ・ 2週間を超えての連用では、副作用が発現する可能性が高まるおそれがあります。服用によって、一時的に症状が改善しても、症状を繰り返したり、症状が改善しないまま、漫然と服用を続けていたりするケースなどもみられますから、医師の診察を受けるように伝えましょう。

#### <用法・用量に関連する注意>

- (1) 本剤は、症状が辛いときだけ服用するもので、1回の服用量、服用間隔、1日の服用回数を厳守することが大切です。
- (2) 本剤は、口中でさっと溶けますが、唾液や水で飲み込んで下さい。(口腔粘膜からは吸収されません)。
- (3) 薬をアルコールで飲むのはやめましょう。アルコール自体にも、胃の粘膜を傷つける働きがありますから、症状の改善のためにも、アルコールの摂取は控えるようにアドバイスをしましょう。

#### ■ 成分・分量

- ・ ファモチジン（第1類医薬品）は、胃酸の分泌を抑えるH<sub>2</sub>ブロッカーです。胃粘膜の細胞壁のH<sub>2</sub>受容体に対する拮抗作用により、胃酸の分泌を抑制します。

#### ■ 保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光や高温、多湿は薬の変質の原因となります。窓際やストーブのそばなどには置かないように注意しましょう。
- (2) 小児は、好奇心から何にでも手を出し口に入れてしまうおそれがあります。誤

## V. 添付文書の読み方

### 成分・分量

本品は、白色の錠剤で、1錠中に次の成分を含有する。

成分	含有量	働き
ファモチジン	10mg	胃酸の過剰をコントロールします。

添加物：エチルセルロース、セタノール、ラウリル硫酸Na、トリアセチン、シクロデキストリン、香料、l-メントール、D-マンニトール、アスパルテーム(L-フェニルアラニン化合物)、アメ粉、ステアリン酸Ca

### 保管および取扱い上の注意

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因になったり、品質が変わる。)
- (4) 外箱に表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないでください。



この薬は決められた時間ごとに服用する薬ではなく、症状が出た時に服用するお薬です。食事による影響はありませんので、食前・食後・食間いつ服用いただいても結構です。1回1錠で約8時間胃酸の過剰をコントロールしますので、1日2回服用する場合は8時間以上あけてください。

#### 胃腸の健康を維持するために

暴飲暴食、嗜好品のとり過ぎ、食事を抜く、などは胃腸の健康を害します。このような食生活は避けましょう。また、定期的に健康診断を受けましょう。

飲などの事故を避けるため、小児の手の届かないところに保管しましょう。

- (3) 他の容器に移し替えてしまうと、何の薬かわからなくなったり、不衛生になったりさまざまな不具合が起こります。もとの箱に入れたまま、添付文書と一緒に保管するように伝えましょう。
- (4) 薬に記載されている使用期限は未開封の状態のもので、これを過ぎたものは使用しないように伝えましょう。

#### ポイント！

本剤で最も大切なポイントです。症状が出たときだけ服用する薬であること、1回1錠服用し、8時間以上たっても症状が改善しない場合のみ、もう1錠服用すること(ただし、1日2回まで)などを、顧客が理解しているか、もう一度確認しましょう。

#### ■胃腸の健康を維持するために(養生訓)

症状の改善や病気の予防、早期発見などにつながることをアドバイスしましょう。